

明治三十五年

露國製糖業之
報告在志子領事
進達之件

外務省

明治卅五年十一月十日受 通商局

原簿第一二二號

第一四六五二號

在ナリテ一節是領事ヲ、報告ノ係ハ露國制糖業ニ
関スル事項實有リ行ノ通商局實業第二百三十六七兩條
ニ掲載ノ趣チ者總務長官ヲ當省總務長官ハ通
知相成テ據本業實業ニ付テ是ノ事ハ露國領事
考案ナリ即充テ用ニ付向ニテ是ノ事ハ露國領事
館ニ依頼ス

明治卅五年二月八日

大藏省主税局長日原田種之郎



外務省通商局長杉村濬殿

三十號第一四六五二號

公外拾七第

第五〇

一八六九

十月六日報告部受
官報掲載

通商部

官報掲載

去年、鬼
の

二三六

通商部
第三七

十月六日官報掲載

露國製糖業の調査報告進達件

露國製糖業の漸々たる下等期に於て其發達、崩
芽の衰シタルニモ物不商後、進歩の非常ニ強足ニシテ今日
在リテ、業、外國砂糖の内地市場より一掃シ進テ外國へ
輸出スルハ盛況に達シタリ、本業の沿革及ヒ之ニ關シテ政府、
經濟政策ニ本邦、如キ千七百萬圓進テ外國砂糖ヲ輸
入スル國、取ツテ之ヲ研究、資料トシテ精々興味ニシト思
考候ニ付、茲ニ露國製糖業一斑ト題シ報告書ヲ編作
シ之ヲ所以ニ有之候本邦、於テ之ニ親近漸々製糖業、注意
シ甘蔗糖ノ近キ將來ニ於テ台灣、勸奨スル進、キリルニ
甘蔗製糖ハ北海道産出、失敗ハ未ダ、等南、附セシタ
シテ下ニ之ヲ露國製糖業ノ沿革、並ニ、旧道ノ氣候等、徴シ
テ考ル、決シテ新念スルキモ、ニシテ、將來、旧道、殖産書」
業、一トシテ確ニ確信スルノ價値アリト候ニ候、現、本邦、
糖業、甚々幻構、ニテ、外、國、砂糖、輸入、ヲ必要トスル
ガ故、本邦中、露、貿易、社、舞、ニ、方法、トシテ、露、國、産、砂
糖ヲ本邦市場、限付スル下、同シテモ、即カ、卑、意、ヲ吐露
スル、候、又、アラセ、列、國、砂糖、條、約、用、ニ、露、國、抗議、文、及
ビ付、局、書、ハ、本、編、終、福、後、公、ヒ、シ、タ、ル、モ、本、邦、モ、本、件
ニ、最、惠、國、條、款、ノ、解決、及、ヒ、將、來、起、ル、キ、列、國、間、関、税
衝突、ニ、不、敷、申、付、テ、右、ニ、シ、テ、ス、愈、列、國、於、テ、露、國、糖、
對、シ、特別、ノ、高、稅、ヲ、課、ス、ル、場、合、至、五、回、品、仕、向、地、隨、テ、一、變
シ、或、ハ、地、東、市、場、ハ、主、トシ、テ、輸出、セ、ラ、ル、ト、モ、難、計、ノ、果、シ、テ
然、レ、ハ、本、邦、市場、一、日、而、テ、輸入、ス、ル、企、圖、一、層、便、宜、ヲ、増
ス、ル、ト、思、考、候、候、ニ、付、テ、之、ヲ、本、編、附、録、ト、シ、テ、譯、載、シ、置

132
105

一、月打合と中ミテ末夕何等、向差ヲモミズルハ、露國
 政府が精製糖一布度、付キ六箇、粗製糖一布度、付キ
 四箇五十亨ノ関税ヲ課シ、内地税トシテ、僅一布度
 一付一箇七十五亨ノ徵ニ兩税ノ間ニ著シキ差額ヲ存スルハ
 内地、市價、昂進ヲ促シ、内接奨励、結果トシテ、列國破
 糖条約ノ規定ニ違反スルカ故ニ、對シ特別ノ高税ヲ附加
 シテ差支ヲシトシ、露國存スルヤ、露國存スルハ、本海
 中ニモ、海運、置キ、如ク露國ノ破糖ノ法定直
 段ニテ存シ、當業者カ、失、露國ノ市價、昂進セシメ、以テ廉
 價輸出ヲ在國ニシテ、露國ノ居ル列國ガ露國ニ對シ、論
 兵、甚ク薄弱、露國政府、現今、破糖
 輸出ヲナシ、指キ、之ヲ重要視セス、又表面上何等、奨励保
 護ヲモ興ヘザリ、抗議書、叙説ニ如ク、レドモ、又一方、論
 ル時、政府カ、輸出破糖、付シ内地税及ビ特別附加税ヲ
 免除スルコト、各製糖家問、内地市場販賣、推シ、讓與
 破糖、在、露國、一、事、事實問題、トシテ、多ク、異議
 ヲ招ク、今、地、モ、一、事、事實問題、トシテ、多ク、異議
 國ノ現行破糖制度ヲ以テ、問、接、輸出、奨励、スルコト
 見做シ、之、特別高税ヲ附課シ、居、露國、之、要ス
 露國ノ抗議、到底、列國、承認、スルコト、ナラズ、シテ、浩局
 例ノ関稅衝突、終ルヘキ、今、露國、其、對、手、九、列國、ナリ、ハ
 比、抗爭、露國、取リテ、容易、ナラズ、ルコト、日、時、列國、取
 之、モ、露國、如キ、好、市場、ヲ、攬、取、ル、願、セ、ズ、一、次、方、ナリ、ハ、又
 之、ク、輕、ク、看、見、ス、ル、コト、得、ザ、ル、ハ、勿、論、也、
 右ノ報告、候、故、具、
 在、外、公、館、

50

在外公館

明治三十五年七月十九日

在オランダ

領事 飯島 亀太郎



外務大臣男爵小村壽太郎殿

公修第拾七號附屬
工部國製糖事情一班

在
外
公
館

3-1350

0336

198
106

一、露國製糖事情一斑

緒言

製糖事業ノ國家經營上緊要欠クベカラザルハ敢テ贅言ヲ要セザレ一併ニテ現ニ各國ガ銳意斯業ノ啓發ニ盡瘁シツ、アルニ照シテモ明瞭ナリトス且之ヲ以テ歐羅巴諸國ニ於テハ斯業ノ傑スル事項ハ薄ク社會問題ニ登ルコトアリテ現ニ輓近自耳義國ニ於ケル九ヶ國聯合砂糖條約ノ如キハ則チ其例證ノ一トシテ見ルコトヲ得ベキナリ而シテ歐羅巴洲ノ砂糖製産國トシテ常ニ世人ガ呼称スル所ノ者ヲ見ルニ曰ク獨逸曰ク澳地利曰ク自耳義而シテ露西亞ニ至リテハ稀ク之ヲ聞ク所ナリ然カモ其生産力ノ強弱如何ニ至リテハ露國ハ優ニ生糖國中ノ要位ヲ占ムコト得ルコトヲ大輓近其輸出額ニ獨逸ヲ除クノ外他製糖國ノ凌駕スルノ勢ヲ呈シ又其品質ノ優劣ヲ論スレバ衆人ノ之ヲ賞揚セザルハナシト雖本邦ノ如キ從未重ク獨逸澳地利露洲等諸國ノ砂糖ノミヲ使用シ且是レニ馴染スルヲ以テ未ダ嘗テ露國糖ノ趣味ヲ知ル者ナキガ如シ是レ素ヲ露國ノ製糖ガ致カ市場ニ顯ハレザルカ爲メニ基因スル所ナラント雖聊モ是レヲ研究査査スル者ナキシカ爲メナラシ余輩ハ露國砂糖ヲ本邦市場ニ輸入スルノ得失ハ暫ク當事者ノ判斷ニ俟タント敢スルモノナリト雖露國製糖業ノ事情ヲ詳悉シテ之レヲ世人ニ紹介スルハ復ク頗ル有益ナリト信ズルカ故ニ茲ニ本編ヲ起草セシ所以ナリ

本編ハ露國大蔵省外國貿易年報、商會會議所年報、製糖業沿革誌并ニ當地斯業家ノ談話等ヲ參照シ編纂シタル者ニシテ先ツ露國製糖業ノ沿革

134
107

現況輸出砂糖、情況附テハ、オランダ、港輸出ノ現情等ヲ詳説シ、結局本邦へ輸出ノ見込ニ就テ卑見ヲ附記シ以テ、内國當業者ノ參考ニ資セント欲スルモノナリ

第一、製糖業ノ沿革

露國ハ農産國トシテ、夙ニ殖産工業ノ啓發ニ熱中シ、直接間接ニ其保護ヲ行テ民間事業家ヲ誘導シ、獎勵シ、末イタル、今日迄ノ事蹟ニ於テ著々見ルヲ得ベキナリ、而シテ、最近其製産事業中偉大ノ歩趨ヲ進メタルハ、製糖事業業是レナリ、今斯業カ如何ニ長足ノ進歩ヲ顯ハシタルカヲ知ラント欲セバ、須ク其沿革ノ一斑ヲ攷究スルノ必要アリトス、顧ミテ露國ハ十八世紀、始メ近ニ東印度諸島嶼ニ於テ産出スル甘蔗製ノ粗製糖ヲ輸入シテ夥々ナル國民需

在 外 館

要ニ使シ、未リタルニ右粗製糖ハ其品質ノ粗惡ニシテ、萬般ノ需要ヲ充クス能ハズ、隨テ是レヲ精製スルノ必要ヲ感ジ、即チ千七百十九年始メテ、聖彼得堡府ニ精糖製造所ヲ創立セリ、然レモ一製造所ヲ以テ全國需要ヲ幾分ヲモ供給スル能ハズ、繼テ十八世紀ノ末ニ於テ、其數七ヶ所ニ達シ、テ、此時ニ於テ、獨逸ニ於テ、甜菜糖製造ノ發明アリ、露國ハ之ニ倣ヒ、甘蔗糖製造所ヲ歐羅巴中央ニツクリ、モスクワ縣ニ設置セリ、時チ千八百二年ナリキ、當初甘蔗製糖業ハ、甚メ艱難失敗ヲ重メ、殆ド挫折セントスルノ境遇ニ陥リタルモ、政府ガ銳意ヲ示シ、庇護シタルヲ以テ、結局年月ヲ經テ遂ニ發達ノ氣運ヲ呈シ、製造所ノ數ニ漸次増加シ、製糖高モ著シク增長シ、千八百四十八年ニ於テハ、製糖ノ對シテ内地稅法ヲ稱シ、至レリ、而シテ、最初製造所ハ、簡易ニ

135
108

機械ヲ用ヒ所謂人力壓搾法ヲ以テ起シ蒸氣機械ヲ應
 用スルハ稍々稀ニ見ル所ナリシガ爲メニ製造ノ方法モ一定
 ナク甜菜収益ノ成績ハ最モ低度ニ居レリ且ニ於テカ政府
 ハ製造法改良ノ必要ヲ感ジ且レガ第一ノ手段トシテ微力
 トシ製造所ノ數ヲ減殺シテ蒸氣機械製糖所ヲ獎勵
 スル方鍼ヲ取レリ是レ先キ内地稅法施行ノ際全國製
 糖所ノ數三百四十ヶ所ナリ其内蒸氣機械ヲ使用シタルモノ
 百四十ヶ所ナリシガ追テ改良發達ヲ圖リ結果トシテ既ニ千八百
 八十一年ニ於テ製糖所ノ數二百三十八ヶ所ニ減少シタルモ其二百三
 十七ヶ所即チ僅カニ一ヶ所ヲ除クノ外盡ク機械製糖ニ屬スルモノ
 シテ事業ノ範圍ハ著シク進歩シタリキ且レ畢竟小製糖
 家ハ倒タリト雖資本ニ裕ナル會社ハ漸次其設計ヲ擴張
 シテ機關製糖所ヲ改設ス結果ナリトス今試ミ千八百四
 十八年及千八百九十一年ニ於テ製糖高及製造ニ使用シタル
 甘菜ノ斤量如何ヲ示サバ初年ニ於テ甘菜八十九萬七千
 ベルコトナリ（ベルコトニ露國斤量ニシテ一ベルコトニ十布度ニ該約我
 ガ四十三貫六百餘ナリ）ニシテ製糖高二十六萬九千布度（一布度ニ我四
 貫三百六十餘ナリ）ナリトス次年ニ於テ製糖高廿九千四百十七萬
 四千ベルコトナリシテ製造高三百八十七萬七千布度ナリトス
 該表ニ依リテ見レバ千八百四十八年及千八百九十一年ニ至
 ル四十年間ニ於テ甜菜ノ如何ニ著シク進歩ヲ顯ハシガ
 窺フニ足ル
 爾來製糖業ノ製造方法改良ト共ニ益ニ進歩發
 達ヲ致シタリ今更改良發達ノ結果トシテ顯ハシク蒸氣機
 用甜菜ノ增加ト製糖割合ノ増進トヲ示サシガ爲メ千八百八十
 一年及千八百九十八年ニ至ル十七年ノ統計表ヲ掲ゲテ是照

在外公館

136
109

年次	製造所数	製造用甘蔗量 (千石)	製糖高 (千石)	甘蔗高 (千石)
一八〇一—一八〇二	二三五	二、五三〇、〇〇〇	一、五九三、〇〇〇	二九七
一八〇三—一八〇四	二二七	二、八〇七、〇〇〇	二、七〇五、〇〇〇	三八四
一八〇五—一八〇六	二三五	三、五〇四、〇〇〇	三、八〇一、〇〇〇	四三三
一八〇七—一八〇八	二三八	三、六三三、〇〇〇	三、九九九、〇〇〇	四三五

本表は、概ね十七年間、於て製造高、漸次増加し来り、
ハ敢テ怪シ足ラズト雖モ其甘蔗一ヘシヨク得ル所、製糖
分量ガ益々増加シ来リタルヲ見ルルモ、如何ニ其製造方法、
完備シタルカヲトスルニ足ルヤ
斯、如ク内地製糖業ノ進歩ニ伴ヒテ甘蔗製糖ノ輸入ハ
漸ク減少シ来リタルノミナラズ其内地製造高ハ却テ内地需要高
ヨリモ多シニ超過スルニ至リタルヲ以テ其超過高ノ販路ヲ外國ニ求
ムル必要ヲ惹起シタリ是、於テ千八百七十二年外國輸出砂糖
糖保護方法トシテ戻糖法ヲ制定セラレ、總テ輸出品砂糖ニ對
シ内地稅ヲ返還スルノ法ヲ設ケテ
今左ニ此附ニ於テ輸入粗製糖ノ數量及其後ニ於テ輸入
量ノ消長ヲ示サン

年次	輸入 (千布度)	輸出 (千布度)
一八〇一—一八〇二	一年ノ平均 一一五	二七
一八〇三—一八〇四	七〇五	
一八〇五—一八〇六	一〇八七	
一八〇七—一八〇八	一、九四七	
一八〇九—一八一〇	一、八一五	
一八一〇—一八一五	一、三三七	

52

137
120

一八六一—一八七〇	左	九六二	
一八七一—一八八〇	左	三三四	七二二
一八八一—一八九〇	左	二二三	二六七四
一八九一—一八九五	左	一七三	四七五四
一八九六		二〇	一三六〇二
一八九七		三四	八一四七
一八九八		三八	七二九四

本表、據一八八〇年以來粗製糖輸入砂糖、漸次增加、美
り、其年一八八〇年以後輸出砂糖、在座出スル、至リテ其輸入
、逐次減少シ去リタル、一斑ヲ知ル、是ルナリ

露國製糖業ハ前述ノ如ク政府ノ獎勵スル所ニ在リ以テ
斯業家ハ益々進ニテ其利潤ヲ博シトシ毎年多量ノ
砂糖ヲ生産出スル、至リテ隨テ需給ノ不權衡ヲ招キ遂ニ
内地市場ノ在荷ノ積堆ヲ來シ融通杜絶ノ姿ニ陥リ

是ニ於テ一八八五年政府ハ斯業者ノ困難ヲ援助セシ
爲ノ戻稅ノ外、臨時輸出獎勵法ヲ發布シ露國
製糖ノ外國輸出ニ對シ最初ハ一布度ニ付一留ソ、
補給スル、トシ次ニハ八十哥ニ減少セリ此補給金ハ八月
間繼續シ總額七萬留以上ニ支出ニ達スル、及テ停止セリ
ク、然レモ斯業家ノ損害ヲ蒙ル、至因ハ製糖ノ多量
ニテ需給ノ不權衡ヲ起シ市價暴落ニ在リ以テ之ヲ豫
ノ防遏セシガ爲メ、全國斯業ハ一大組合ニシテ組織
シテ其目的ヲ達セントセリ而シテ此地ニシテ果シテ組織
砂糖ノ市價ハ愈々昇騰シ來リ斯業家ハ其目的ヲ達シ
タルモ獨ニ迷惑ヲ被ル、内地ノ消費諸君彼等ハ糖業者ノ
權利手段ニ對シ大ニ反對ヲ唱ヒ、刻々且ニ於テ一八八九年

在外公館



138
1年1

政府製糖業者が砂糖輸入關稅ノ高率(稅率ニ依リ輸入
糖一布度ニ付四留五十哥)ヲ苛貨トシ溢リ内地產糖ノ市價ヲ
昇騰セシムル一所爲ヲ以テ有害ト認メ時ノ大藏大臣ニ策
ヲ案シ即チ聖彼得堡府ニ在ル萬國銀行ヲハシテ百五十
萬布度ノ外國砂糖ヲ政府自ラ輸入シ内地市場ニ發
賣セシメ以テ市價暴騰ヲ防壓スルヲ得タリト云フ

斯ノ如ク製糖業ニ於テ政府ハ終始干渉政界ヲ取リ時
ニ或ハ輸出奨勵金ヲ補助シ製糖業者ヲ保護スルヲ共
時ニ或ハ前述ノ如キ臨時手段ヲ施シテ消費者ヲ擁護シ位
地ニ立チ斯業家ヲテ利益ヲ斷斷スル丁ヲ得ガシムル等
ノ事ヲ要スルニ斯業消長ノ運命ハ懸テ政府ノ手中
在リ故ニ現今至リ製糖業ニ關スル整理方法ニ專ラ政
府ノ掌裡ニ收攬スル者ノ如シ其詳細ノ情況ハ次節ニ於テ

在外公館

第二 製糖業ノ現況

露國甜菜精糖業ハ政府ガ銳意之ヲ保護シタルノ結
果益々發達ヲ極メ今ヤ製糖業中樞要ノ地位ヲ占ムル
ニ至リタル事情ハ第一節ニ於テ詳悉シタル所ナリ然レ此
業ノ發達スルニ隨ヒ全國產出タル所ノ數量ハ内地需要
高ニ超過シ市價ノ平均ヲ保持スル能ハク遂ニ斯業衰
頹ヲ來タサシムルニ恐レ政府ハ結局斯業ノ監督方法ヲ
設ケ自ラ之ヲ監督スルノ已ムヲ得ザルニ至リタリキ
製糖制限法ハ千八百九十五年發布ノ法律ヲ以テ稍
精微ノ條項ヲ規定セシメト雖爾未屢追加改正等
アリ今千八百九十八年五月發布ノ法例ニ據リ其要領ヲ

189
122

摘記スレバ左ノ如シ

一、毎年内地市場に發賣スル糖類ノ制限ニ政府各製造所ノ製糖豫定高ヲ査定シ其年内製造時機ニ至リ内地に於テ發賣スル糖類ノ規定公布スル事トス

一、政府ハ右規制限高ヲ規定スルト同時ニ各製造所ノ倉庫内ニ常ニ準備貯蓄スル糖類ノ義務製糖額ヲ規定シ之ヲ公布スル此義務貯蓄ハ露語ニテ觸接スベカラザル貯蓄ト云フ義ニ在リ以テ假令固定貯蓄ト意譯セリ

一、政府ハ毎製糖年度内内地市場に發賣スル糖類ノ價格ヲ指定シ之ヲ一定ノ範圍内ニ昇降セシムルノ法ヲ設ケ又一年度内各節限ノ或範圍内ニ於テ價格ヲ増減スル事アルモ要スル其平均ヲ失ハザル事ヲ自的トス故ニ市價昇騰シテ制限定度ヲ超過スルトハ所

在 外 公 館

謂固定貯蓄ヨリ數量ヲ限リ市場に發賣スル糖類ノ余シ以テ市價ノ均衡ヲ保持ス

一、各製造所於テ内地發賣制限高ヲ多量ニ砂糖ヲ製出シタルトキハ之ヲ剩餘砂糖トシ之レヲ市場に發賣セシトスルトキハ内地税々金老布度ニ付老留七十五哥ヲ拂ヒタル外ニ尚ホ老布度ニ付老留七十五哥ノ増加税ヲ上納スルベカラズ而シテ剩餘製糖高ハ各製造所ニ對シ先づ大萬布度宛テ割付ケ其餘分ハ各製造所ノ製造高ニ比例シテ割付ケ當ルモノトス此剩餘高ヲ自由貯蓄ト稱セリ而シテ彼ノ固定貯蓄ニ要スル必要高ハ政府ノ指定ニ據リ右剩餘製糖ノ總額ヲ割合ヲ以テ填補シ又他ノ剩餘ハ外國輸出ニ仕向ケルモノトス

140
1.9

一政府が砂糖市價ノ平均ヲ維持セシムガ爲メノ固定貯蓄
若シクハ自由貯蓄ヲ一定ノ砂糖ヲ融通スルヲ許ス
ハ前述ノ増加税ヲ免除スル事トス但シ普通内地税ハ
規則ニ據リ據キ支拂フベキ事ナリ

一剩餘製糖高ノ内地税所ヲ外國へ輸出セシムルハ
内地税及増加税ヲ免除セラル者トス

一總テ外國へ輸出スル砂糖ハ戻税法ヲ適用スルモノト直
接製糖所ヨリ輸出スルモノニシテ内地税ヲ既納セシ収税
官吏ノ證明書ヲ提供スルモノハ粗製糖及精製糖ヲ
問ハテ壺布度ニ付壺留七十五哥ノ戻税ヲ返還シ其地間
接輸出者トシキハ粗製糖壺布度ニ付壺留精製糖壺
布度ニ付壺留四十哥ヲ拂ヒ戻スモノトス

一露領亞細亞(即チ中央亞細亞沿海外ノ如キ)カシタツカ
半島ヲ除ク)ハ戻税法ヲ施行ス

一砂糖内地税ハ粗製糖壺布度ニ付壺留七十五哥ト
シ精製糖ハ右ノ外尚ホ四十哥ノ税ヲ拂フモノトス

一製造所ハ他所ニ販賣店ヲ置カズ今所ニ於テ販賣
營業スルトキハ別ニ營業鑑札ヲ要セザルモ製造税
トシテ各々布度ニ付壺留ヲ納付スルモノトス

一砂糖製造ノ年度ハ毎年九月一日ヨリ翌年八月卅一
日迄ヲ壺年度トシ内地税ハ三期ニ上納シ毎年四月
上旬ニ於テ同期迄ノ製造高ヲ査定シ第一期六月
一日ニ其製造高三分ノ一以上ノ税金ヲ納メ第二期九
月一日ニ年度間總製造高調査決算書ニ基キ
第一期上納分共全額ノ三分ノ二以上ノ壺額ヲ納
メ第三期十二月一日ニ残額ヲ完納スル事トナリ

在外公館

141
114

露國ノ砂糖經濟ニ關スル條項ハ大畧前陳ノ如シ今
製糖業ノ實情ヲ示シガ爲メ第一ニ生産力如何ヲ觀
察スルノ必要アリ以テ今ヨリ數年前ニ溯リテ之レヲ研究セン
千八百九十六年ヨリ千八百九十七年ニ至ル大藏省ノ調査ニ依ル
ニ全國甜菜耕作地反別ハ三十三萬ヘクタールニシテ(一ヘクタールニ付
ハ一町一反四歩強)ニシテ甜菜收穫力ハ壹ヘクタールニ付
平均百十ヘクトリエツ(壹ヘクタールニ付四十三升大百匁)ヲ得タ
リ(内收穫最多額ハ百四十九升最少額ハ六十四ヘクトリエツヲ示
ス)而シテ各製造所ニ聚集セルタル甜菜總數ハ三千九
百六十九萬壹千ヘクトリエツ(實製糖高ハ三千八百八十萬壹
千布度ナリ)内二千九百九十七萬三千布度ハ歐羅巴南西部方
面千八百九十九萬九千布度ハ中央方面四百九十萬九千布
度ハ彼蘭方面ニ屬ス今千八百九十四年ヨリ千八百九十八
年ニ至ル間粗製糖及精糖製造業ノ製造所ニ於
ケル砂糖生産出高及其種類ヲ區別スルニ左ノ如シ

單位千布度

年次	精糖	白砂糖	黃砂糖	總計
八九四—九五	三四四七	二八五九二	二五八	三三二九八
八九五—九六	三二七七	三三三二五	一一八二	三八七三四
八九六—九七	三九二四	三三八三七	四〇九	三八一七〇
八九七—九八	四三八〇	三七二四七	六七〇	四二六二七

註表中砂糖ノ種類ヲ三種ニ區別シタル原語ニ據リ
タルモノニシテ第一精糖トハ極上精製ノ品質ニテ棒狀
ノ角狀若シキハ結晶體ノモノナルヲ精製ノ上ニ高不精製
シタル分ヲ去リ第二白砂糖トハ水邦ニ於テ精糖ト稱スル
範圍ニ包含スルモノナルヲ末々全ク精製ノ品質ト爲ス

142
115

縣名	製造所數	労働者
キーエフスカヤ	六七	二九三八〇
ハリゴフスカヤ	二六	一〇二五〇
パドリースカヤ	四六	一六八三一
モスコーフスカヤ	四	八三〇
ワルシヤーフスカヤ	二〇	九六八一
ヘルソンスカヤ	二	一六〇九

在外公館

千八百九十六年ノ調査ニ據ルニ全國砂糖製産價格ハ内地稅ヲ除キ一億七千六百二十五萬七千留シテ又製造所并ニ労働者數ヲ重ナル縣別ニ區別スルニ左ノ如シ

此ノ外精糖製造ヲ專業トスルモノハ千八百九十六年ノ調査據ルニ二十一ヶ所ノ精糖製産出高千八百五十一萬布度千八百九十七年千九百六萬布度ナリトス

砂糖ト云ヘリ以下皆之ニ依ヘリ

称スルヲ糖當ナラズモ糖ノ原語ノ意義ヲ直譯シテ糖充分精製ヲ加フルノ余地フルヲ以テ寧ロ粗製糖ト又第ニ、質砂糖ハ品質劣劣等シテ黄色ヲ帶ビ尚心カラズ故ニ原語ノ意義ニ依テ單ニ白砂糖ト云ヘリ

砂糖消費高ニ於テハ千八百九十四年ニ至ル十年間ニ於テ平均至リ又露國ニ於テハ砂糖消費高ニ最初ニ甚ク微少ニシテ千八百八十四年千八百九十四年ニ至ル十年間ニ於テ平均

總テ労働者數ハ製造技術ノ進歩器械其他装置ノ完備トニ依リ著シク減少スルモノナリト雖製産額ハ却テ増加ヲ見ルニ至ルハ自然ノ趨勢ニシテ此レヲ實際ニ徴スルニ千八百八十五年ニハ労働者數九萬四千二百八十九人ナリ労働者數人件漸ク二百三十布度ヲ製造ニ得タレバ千八百九十六年ハ其數八萬九千八百八十人ナリ是レ人件四百二十九布度ヲ製出スルニ至リ又露國ニ於テハ砂糖消費高ニ最初ニ甚ク微少ニシテ千八百八十四年千八百九十四年ニ至ル十年間ニ於テ平均

143
臨
116

均消費高ニ二千四百萬布度ニ止リシニ千八百九十六年千九十七年ハ 三千九十萬布度千八百九十七年千九十八年ハ三千三百三十萬布度 千八百九十八年千九十九年ハ三千五百五十萬布度千九百九十九年 千九百年ハ三千五百五十八萬布度千九百零一年千九百零二年ハ三千六百 萬布度ニ昇リ要スル消費高ハ漸次其増加ニツアルヲ見ルベキ ナリ最近千九百零一年千九百零二年ニ至ル年度間政府ハ全國製 糖所ノ製造高ヲ査定シ之ガ制限法ヲ規定シタルモノヲ 見ル左ノ如シ	
内地市場發賣得ベキモノ	三千五百萬布度
固定貯蓄ニ準備スベキ分	三百五十萬布度
自由貯蓄ニ恰當スベキ分	千四百四十七萬三千五百五十二布度
内地市場砂糖制限直段 (千九百零一年九月一日)	
白	自千九百零一年九月一日
砂	自千九百零一年一月一日
糖	自千九百零一年一月一日
布	四箇四十番
度	四箇五十五番
然ルニ千九百零一年ノ夏頃刊ニ上リテ地方於テ砂糖直段制限以 外ニ昇騰シタルヲ以テ政府ハ七月中及八月中五十萬布度 ツニ回程固定貯蓄ヲ市場補出スル事ヲ許セヨリ故ニ 今年度間於タル内地發賣高ハ三千六百萬布度トナレリ 尚ホ千九百零一年ノ調查據ハ全國製糖所數二百七十四所 ナリ(但シ外精糖製造所ニテ所アリ之ヲ除キ)而シテ甜菜耕 作地ノ状況如何ニ就テハ最近即チ本年九月政府ノ調査 一大藏省週報本年九月二十日(休)ニ據ル全國甜菜植付ノ屬	

56

144
117

地区	1901年		1902年		1903年		増減	比率
	反別	合計	反別	合計	反別	合計		
北海道	19,540	23,549	18,490	22,542	19,540	23,549	△1,050	4.5%
東北	4,023	6,355	3,542	5,542	4,023	6,355	△481	11.9%
関東	2,334	3,438	2,334	3,438	2,334	3,438	0	0%
中部	7,647	11,548	7,647	11,548	7,647	11,548	0	0%
関西	2,218	3,322	2,218	3,322	2,218	3,322	0	0%
中国	3,331	4,435	3,331	4,435	3,331	4,435	0	0%
四国	1,118	1,222	1,118	1,222	1,118	1,222	0	0%
九州	1,118	1,222	1,118	1,222	1,118	1,222	0	0%
合計	37,647	51,548	37,647	51,548	37,647	51,548	0	0%
製造所	19,540	23,549	18,490	22,542	19,540	23,549	△1,050	4.5%
耕作専業者	4,023	6,355	3,542	5,542	4,023	6,355	△481	11.9%
その他	2,334	3,438	2,334	3,438	2,334	3,438	0	0%
合計	25,897	33,342	24,366	31,522	25,897	33,342	△1,431	5.3%

此表別々通シテ五十四萬三千五百三十九ヘシテ其耕作地タル直接製糖所ト有テ耕作専業ノ所有者トシテ區別ス且ツ全國耕作地ノ情况ヲ查スルニ爲メテ致露諸縣ヲ三ノ大區別域ニ畫別シテ(一)南西部(二)中央部(三)波蘭地方ト爲テ其詳細ナル反別縣別ヲ掲ゲ且ツ千九百一一年及千九百二一年ノ増減比較統計ヲ掲ゲテ參考ニ供セン

在 外 館
計
反別
増減
比率

145

118

合計	五二七	一三七五	九〇六	六四九五	一四九七	一〇八三	一四二
波蘭地方	六三〇	一八七	二〇九九	三三九七	三九九	三四四	二五
カシミア	一三二	一三四	三三三	三九五	三三四	四〇八	七三
ケレツカ	一	一	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	一三
ロシヤ	三七五	四〇〇	八〇五	八〇	二二八	二二五	七〇
トルコ	六七三	九七七	一四二二	一六二八	一五九三	一五八八	九五五
ペルシア	一五	一	一四五	八三	一四〇	八三	六四
アフリカ	九九	二二	八五九	一〇七〇	八八八	一〇八三	二二五
オーストラリア	三四八	三二四	二三五	二四四	二七〇	二八〇	四〇
オセアニア	五	一	一三六	一三〇	一三六	一三〇	四五
合計	二二六	二三五	二九九	二九九	二九九	二九九	四七
全国合計	三八〇	一〇八三	三三八	三三八	三三八	三三八	二九

本表は、據り見れば本年、耕作地反別、五十四萬三千九百三十九ヘクタールに比し、増加見たり。而して又本年、於て耕作地、製造所々有、分増加して耕作専業者、分が総じて減少セラるルに、又各地方、耕作如何、據り見れば、波蘭地方も亦増加ヲ見ル。今露國全般、於て製糖所、於て一ヶ年、製糖高、其種類別、内國市場流出高、并、甜菜製糖ノ品質、比例等、示さず、無益ニテ、於て左、大蔵省年報、據り、一九百九十七年、一九百九十八年、至ル統計表ヲ掲グ。参考ニ供ス。但、該統計、新新ナリ、其ハ遺憾トナル所、在、其後、統計、未カ也。設、布、ラ、レ、ハ、以、テ、暫、ク、本表、假、シ、其、大、勢、ヲ、觀、察、ス、ル、資、料、ニ、供、セ、ン、ト、ス。

在外公館

洋菓子
シロップ

146 / 119

製糖所	製法	製造高		内地市場消費高		合計	糖精	並糖	製糖所
		石	糖	白砂糖	黄砂糖				
三井物産	製糖	1,023,270		99,370		99,370		4,448,810	三井物産
三井物産	製糖	1,125,770		2,191,840		3,317,610		6,683,940	三井物産
三井物産	製糖	1,041,810		2,375,680		3,417,490		6,883,880	三井物産
三井物産	製糖	1,041,810		1,964,960		3,006,770		6,071,730	三井物産
三井物産	製糖	1,041,810		1,964,960		3,006,770		6,071,730	三井物産
三井物産	製糖	1,041,810		1,964,960		3,006,770		6,071,730	三井物産
三井物産	製糖	1,041,810		1,964,960		3,006,770		6,071,730	三井物産
三井物産	製糖	1,041,810		1,964,960		3,006,770		6,071,730	三井物産
三井物産	製糖	1,041,810		1,964,960		3,006,770		6,071,730	三井物産

59

147
臨
120

第三輸出砂糖情况

露國輸出砂糖之就、第二節、於テ畧ニ說明セシメ、如ク戻稅法ヲ適用セザルヲ以テ其價格、於テモ内地向ト外國輸出向トハ大ニ異ル所アリ以テ外國市場ニ於テ市價ノ競争ニ當ルベキ定度ヲ有セシメ、而シテ其輸出ニ仕向ケタルノ砂糖、內國市場ニ發賣スベキ砂糖制限高ヲ控除シテ製糖業ノ剩餘ヲ生ジタル分ヨリ之レヲ流出スル事トナシ、今ハ製糖業ノ發達ニ伴ヒ多量ノ剩餘ヲ生出スルニ至リタルヲ以テ其販路ヲ外國ニ求ムルニ必要ニ至リ、年一年ニ步程ヲ進メ、アルガ故ニ露國製糖業家ハ目下西歐諸國ヲ好顧客トシテ輸出スルモ拘テ、尙ホ亞米利加及東洋諸國ニ其市場ヲ擴張セントスルニ熱中シ居ルモノ、如シ今試ミシ全國輸出ノ情况如何ヲ考究シ

甲、全國輸出情况

森永 公館

千八百九十八年大藏省貿易年表ニ據リ露國ヲ諸外國ニ輸出シタル砂糖ハ七百二十萬布度此價格ヲ五百十二萬九千留シテ之ヲ各種類及重ナル仕向地ニ區別スルニ左ノ如シ

純白粉砂糖	(布度)	(留)
芬蘭土	一三四五〇〇〇	二五二八〇〇〇
伊太利	一三三三〇〇〇	二二一九〇〇〇
土耳其	八四五〇〇〇	一三七五〇〇〇
彼斯	四八六〇〇〇	一〇七二〇〇〇
獨逸	五五八〇〇〇	九六五〇〇〇
埃匈	一六一〇〇〇	二九〇〇〇〇
英吉利	一四四〇〇〇	二四四〇〇〇
黃色粉砂糖		
獨逸	三三〇〇〇〇	四八六〇〇〇

148
121

16

國別	種類	需要国トシテノ輸入高	
		輸入額 (在置貨幣)	輸入價格
英吉利	白糖	一四六九三	七〇五三
紅蘭	白糖	一六五二〇	一〇、一六九
伊太利	各種糖	五四	—
伊太利	各種糖	七三一	二、五九一
合衆國	白糖	三四七二六	七、九三四
佛朗西	白糖	一〇〇	三一
瑞西	白糖	四二〇	一三、〇七七
瑞西	精糖	三三五	一七、六九六
製産国トシテノ輸出高	各種糖	四九二二	六七、五〇一

右表ニ據リ是レヲ觀ル露國砂糖ノ重要地ハ芬蘭
土一且ハ露國トハ暫ク爲クヲ除ク外伊太利土自格獨逸
彼斯英吉利埃甸等ノ諸國ナリトス然レ右諸國中ハ
砂糖製産國ニ屬スル分ヲ包含シ居ルモノナルモ通商貿
易ノ結果又ハ市價高低ノ影響トシテ外國砂糖輸入
入ヲ来シタルモノナランカ今此等諸國ヲ製産國ト需要國ト
ニ區別シ其輸出入ノ數量種類價格等ヲ掲ゲテ參考
ニ資セン

精製砂糖
芬蘭土 一四二〇〇
英吉利 一九二〇〇
埃甸 一四七〇〇
彼斯 一六六〇〇
芬蘭土 一四一〇〇
統計 七二〇〇〇 一五、二九〇

在外公館

1199
122

白耳義	獨逸	和蘭	佛蘭西
粗製糖 噸	精糖 噸	精糖 噸	全 噸
122	48	5158	110
		137	法
			36974

註 本表ノ度量「セントナル」ハ「度」ニ等シク「グラム」ハ「斤」ニ等シク「キログラム」ハ「石」ニ等シク「トン」ハ「石」ニ等シク「セントナル」ハ「度」ニ等シク「グラム」ハ「斤」ニ等シク「キログラム」ハ「石」ニ等シク「トン」ハ「石」ニ等シク

露國ノ砂糖輸出地トシテ最モ重要ナル地位ヲ占ムル者ハ第一「オーストラリア」次「ムラウィ」(露獨國境ニ在リ)「ウロクエウス」(露國ト獨逸ノ國境ニ在リ)「シラエフ」(黑海沿岸ニ在リ)等ナリトス。此等諸ヶ所ハ何レモ輸送便益ノ地位ヲ以テ全國各地方ニ於テ製造セラルル砂糖ハ皆此等ノ國境ニ輸送シ來リテ陸路若シハ海路ヲ經テ外國ニ輸出スルモノトス。而シテ其輸出入ノ多少ハ素ヨリ全國製糖ノ多少ニ據リテ差異アルベシ。政府ガ輸出奨励ノ爲メ重要輸出品ノ鐵道運賃ヲ低減スル等ノ場合ニハ其結果トシテ大ニ輸出入増加ヲ致スノ事情アリトス。今前記ノ數ヶ所ノ輸出入ニ於テ最近ノ統計ヲ與テ左ノ如シ

市名	千九百零九年	千九百一十年	千九百一十一年	千九百一十二年
オデッサ	556000	340000	2294000	2957000
ムラウィ	—	86000	403000	528000
ニコライエフ	—	236000	176000	233000
ウロクエウス	—	—	—	187000
クラエウス	—	—	—	396000

150

123

本表ニ掲ケル市府ハ陸路西歐羅巴又ハ海路地中海沿岸ノ諸港ニ輸出スルモノニテ此地東海沿岸ニ在ルコト及リトシヨリ中央亞細亞彼斯等ニ輸出スルモノ僅少ニアリ又或ハ地部芬蘭土ニ各處ニ輸送スル砂糖之亦其數著シキモノナリトス 茲ニ其ニミテ舉ゲルハ百九十八年、バク、百八十五萬五千布度、アトラニ、四萬六千布度、芬蘭土十、一萬二千布度等ヲ輸出セリ

是ニ依テ見ルニ現今露國砂糖ノ輸出ハ數年ノ平均ヲ以テ計算スルトキハ約五百五十萬以上九百萬布度ナリトス是レ内地消費高ノ三千六百萬布度ニ比シバ僅少ニテト云ハガルト得ル然レトモ露國ノ砂糖經濟ハ專ラ内地消費額ヲ補充シ市價ノ平均ヲ維持シ他方ハ關稅ノ高壁ヲ築イテ外品ノ輸入ヲ禁制スル等傾意ニ來

在 外 公 館

リタルヲ以テ特ニ外國輸出ヲ獎勵スルノ場合ニハ内地製造高ノ非常ニ過剩ヲ告ゲ斯業家ノ慈境ニ陥リタル際ニ實際ニ在テ未ダ最初ニ專一ニ輸出ヲ勸誘スルノ舉アルヲ見ル然レニ製糖高ノ過剩ヲ外國市場ニ輸送スルノ一事ハ素ヲ快贊スル所ニシテ即チ戻稅法ヲ以テ内地稅ヲ免ジ外國產ノ砂糖ト競争ニ堪ムル手續ニ出ダタルガ如キハ其一例ナリ然レニ又政府が規定セル砂糖制度中ニハ外國ノ市價非常ニ昂騰シ輸出砂糖ノ巨利アルニ隨テ斯業家ヲシテ一年內ニ再度ノ製造ヲ企圖セシムル場合アルトキハ政府適宜戻稅法ヲ停止スルカ或ハ其戻稅額ヲ減サスルヲ得ルノ個條ヲ設ケタリト云ハハ輸出營業ヲ以テ第二ノ地點ニ置クモノナリト云ハガルト得ル

151

124

乙、オデッサ港砂糖輸出情況

前項叙述ニシタル如クオデッサ港ハ露國砂糖ノ輸出地トシテ最モ要位ヲ占ムル所ニシテ莫然ル所以ノモノハ一ハ露國ノ砂糖産地トシテ首位ヲ占ムルキトシテハ縣ニ接連スル據リニ氣洋及歐羅巴ノ海陸運輸ノ衝ニ當ルヲ以テナリ故ニ輸出砂糖ハ穀物ヲ除キテハ當港ニ於ケル商業取引中最モ重要ナルモノニ屬セリ今オデッサ港ノ商業會議所ノ調査ニ依ル本年百年ノ貿易表中オデッサ港ヲ經由シ歐州諸國及絶東ニ向ケ輸出シタル砂糖ノ數量及價格ヲ適記セバ左ノ如シ

歐羅巴諸國ノ輸出額 二百九十九萬二千布度
 絶東一ノ輸出額 二十九萬布度
 合計 三百二十八萬二千布度

此批覽價格九百九十七萬九千四百圓
 在 外 公 館

之ヲ千九百露國全國ノ砂糖輸出高六百九十一萬布度ニ比較スレバオデッサ港ニ於テ全國輸出砂糖ノ半額ヲ輸出シ居ルモノ、如シ今輸送砂糖ノ品彙及重ナル仕向地ニ區別スバ左ノ如シ

種類別	白砂糖	二百九十三萬二千布度
	黃砂糖	五萬八千布度
	精糖	三千布度
仕向地	伊太利	百八十五萬五千布度
	土耳其	九十二萬八千布度
	英吉利	二十一萬五千布度
	埃及	八萬布度
日本	(概算)	三萬布度

右表中日本ノ輸入シタル砂糖ハ其品質粗悪ナリトノ批評アリ

162

152
125

好結果ヲ奏セザリト雖斯業者其失敗ノ要因ハ畢竟
 オデソホニ於ケル所造リノ粗悪ナリト且ツ鐵道會社若
 キ運漕部等ノ倉庫取扱ノ不親切ナルニ在リテ爲メ
 砂糖ノ變質ヲ來シタル者ナリト唱道ニ居リ
 然ラ當港砂糖輸出ハ老々年間ノ季節ニ據リテ消長
 正ガ故ニ左ニ千九百年及千八百九十九年ノ二年間ニ於テ輸
 出月別比較ヲ掲テ參考ニ供セン

輸 出 月 別 表 (千布立單位)

月	千九百年	千八百九十九年	月	千九百年	千八百九十九年
一月	五十四	一	五月	一九八	二二
二月	三八九	三	六月	四六	二六
三月	二一九	五	七月	九一	一
四月	二五七	一九	八月	九	四
九月	四	六五	十一月	六二六	七五六
十月	七〇九	七五	十二月	二一九	三七七

在 外 公 館

本表ニ據リ之ヲ見ルニ毎年初期ニ於テ多額ノ輸出アリ
 漸次退減シ夏季初秋ニ最モ少額ニシテ年終ニ向ヒテ順
 次増加スルヲ見トス

砂糖運賃 オデソ、港ヨリ地中海沿岸諸港及倫敦
 等ニ於ケル運賃ハ船舶出入ノ度數ニ由テ時々變動
 スル事アリテ一定シ難シト雖モ凡ソ其普通ノ價格ヲ指
 定スル者、如シ

オデソ、倫敦間 砂糖六十二布度(吉嶼) 自送貨十志
 至左十六志
 伊國セソ間 大十一布度(吉嶼) 自佛貨十一志
 至左十六志
 但シ千九百年中九月及十月ノ頃船舶欠乏貨物積堆ノ為
 ニオデソ、倫敦間 英貨ニ志ニ暴騰シタルアリシモ

158
126

年末、至リテハ十二志六元。低落ヤ、又日付、間ノ運賃
七一十法半、近、達シタルモ、暫時シテ十三法半、低
落ヤ

オデツカ、日本間、砂糖、大ニ布度(毫噸) 英貨三十二志
但シ、當港ト東洋諸港間ニ、敷多ノ汽船會社互ニ

競争ノ結果、實際ノ運賃額ハ表面上ノ呼聲
ヨリ、尚ホ低廉ナルガ故、目下輸出者ノ便利ヲ得、華
勢、カラ、女ト、當地海運業者ノ談話ナリトス

序ニ記ス、露國政府ハ、曩ニ内地、重ナル都府例ニ、莫斯科、
アリ、ヨリ、ウ、クル、ス、ク、等、ヲ、オ、デ、ツ、カ、
ヲ、由、絶、東、浦、潮、若、ク、ハ、三、
ヲ、立、フ、ス、ク、等、ハ、輸、出、貨、物、直、輸、送、ノ、便、益、ヲ、圖、ル、為、メ、一、法、
ヲ、設、ケ、現、今、日、ニ、迄、實、行、シ、未、キ、タル、モ、其、方、法、タル、ヤ、荷、主、ハ、オ、デ、
ツ、カ、ニ、於、ケ、ル、義、勇、艦、隊、支、部、豫、ノ、契、約、ヲ、為、ス、必、要、アル、ニ、シ、

在外公館

其、他、荷、積、証、書、作、製、上、不、敷、手、数、ヲ、要、ス、ル、ヲ、以、テ、為、メ、在、荷
物、ハ、オ、デ、ツ、カ、到、達、後、於、テ、自、然、法、滞、ヲ、未、ス、ノ、不、便、アリ、テ、荷、主
ノ、苦、情、少、ナ、カ、リ、キ、然、レ、モ、本、年、七、月、一、日、官、報、報、道、ス、ル、所、ニ、據
キ、露、國、通、信、省、ハ、大、藏、省、ト、協、議、ノ、結、果、内、地、各、埠、停、車、場、ヨ
リ、オ、デ、ツ、カ、港、ヲ、經、テ、地、中、海、并、東、洋、諸、港、ニ、向、テ、輸、送、ス、ル
各、種、貨、物、ノ、直、輸、送、ノ、便、利、ヲ、查、察、シ、總、テ、從、未、不、便、ノ、規、
定、ヲ、廢、シ、更、ニ、其、規、程、ノ、範、圍、ヲ、擴、張、シ、且、最、モ、簡、易、ナル
方、法、ヲ、以、テ、輸、送、ノ、方、法、ヲ、規、定、セ、リ、其、要、点、ハ、内、國、各、地、ノ
停、車、場、ヨリ、前、記、外、國、諸、港、ニ、向、ツ、テ、輸、出、ス、ル、貨、物、ニ、對、シ、テ
第、一、鐵、道、運、賃、ヲ、三、割、五、分、ヲ、三、割、割、引、ヲ、為、シ、第、二、繁
華、各、埠、積、積、證、書、ヲ、作、製、ス、ル、代、リ、送、狀、引、換、證、書、ト、テ、兼、用、ス、
ベ、キ、簡、單、志、一、葉、ノ、送、狀、ヲ、以、テ、之、ニ、代、用、セ、シ、ム、事、ト、シ、加、シ、其、送、
狀、文、言、等、モ、從、未、露、文、ノ、ニ、ナ、リ、シ、ヲ、尚、英、佛、國、語、ノ、及、譯、ヲ

154
127

並記シ、各國人ヲシテ一目瞭然タラシムル便法ヲ設ケタリト云フ。
是ト依テ見ルニ、オランダヨリ輸出ノ貨物ハ自今非常ノ便利ヲ得
ルニシテ、其間接輸出貨物ノ奨励ハ一助トナルヲ疑ハズ。
砂糖相場、オランダ商業會議所報道ニル所ノ千九百年
内ニ於ケル砂糖平均相場、撮ル左ノ如シ。

輸出砂糖	壹留五十哥 (壹布度存) 安直
	壹留八十五哥 (全) 一高直
白砂糖	四留四十哥 (安直)
	五留十哥 (高直)
内地消費砂糖	結晶砂糖
	五留三十哥 (安直)
	六留二十哥 (高直)
	角砂糖
	五留六十哥 (安直)
	六留五十哥 (高直)

在 外 公 館

本表掲ケタル高直ハ既ニ制限價格ヲ超過シタルモノニシテ
政府ハ實際布價ガ制限以外ノ高價ヲ二週間維持スル
ハ即チ固定貯蓄ヨリ砂糖ヲ融通セシムル規定ヲ實行シ
當年度於テモ壹百萬布度ヲ融出シテ其價格ヲ低廉
ナラシムルニ勤メタリ。概スルニ砂糖價格高騰ハ一時ノ現象ニ止
マシ一朝固定倉庫ヨリ出荷スル時ハ遠カキニテ政府ガ豫定ス
ル所ノ價格範圍内ニ低落スルニ至ルモノトス。
輸出直段ハ決シテ政府ニ於テ制限スルモノニアラス其動靜ハ
素来全國原産物ノ豊凶ヲ以テ第一ト爲スベキモ其種々ナル
事情ニ起因スルモノアリテ一々之レヲ枚擧スル能ハス。雖モ元来
政府ガ義務貯蓄高ヲ増減シ若シハ製造高ヲ制限
スル等ノ處分ハ其直段ノ變動ニ影響スル所僅クニシテ
然レモ其平均直段ハ約壹留六十哥内外トスレバ大過ナラズ。

155
128

第四本邦へ露國砂糖輸見込就キ

露國ハ製糖國トシテ遠ク獨逸ニ及バト虽尚甜菜耕作地五十四萬三千九百三十六デシヤチ一明治三十五年九月調査一有シ出レテ四百六百萬布度余、砂糖ヲ製造シ優ニ内地ノ需要ヲ充タシテ尚ホ外國へ輸出スルノ餘カアルモノトテ露國ヲ諸外國へ輸出スル砂糖ガ現今於テ漸ク四百萬留ニ超過セザルモノハ一製糖事業ノ年所ヲ歴テ其耕作製法ノ改良、幼穉ナルト政府ガ砂糖市價ノ整理方法ニ熱中ニテ輸出ヲ糾畫スルノ暇アリント一土地廣濶人口衆大ニシテ内地消費高ノ巨大ニ元因スル外ナラズ然レ今毎年新製糖所ノ創設ヲ見加フル政府於テ斯業獎勵ノ結果トシテ逐年其産出額ヲ増加シ供給ハ内地ノ需要ニ超過シ外國市場ニ販路ヲ擴張スルニ神ヤレ事業擴張ニ伴テ利潤ノ増加ヲ見レトテ得ザルニ至ラント此ニ於テカ砂糖輸出ノ計畫ハ漸ク當業者ノ注意ヲ促シ機敏ナル商人ハ既ニ若干貨車ノ砂糖見本ヲ日本へ回送シ其販路ノ開拓ヲ企圖スルモノヤ有リキ露國産砂糖ガ甘菜糖中ノ優品ニシテ糖分富ク飲食料ニ適合スル事ハ實際之ヲ使用シタルモノ均シク認知スル所タイ前章製糖沿革ニ記載スルガ如ク露國政府ハ砂糖市價ノ一定ヲ保持スル手段トシテ製糖額ヲ内地販賣・自由貯蔵・固定貯蔵・分配セシメ其指定シタル額ヨリ以上ノ砂糖ヲ内地市場ニ出ス事ヲ許サズ若シ製糖家ニシテ指定額以上ノ砂糖ヲ内地ニ於テ販賣セント欲スルハ、砂糖國稅一布度ニ付留留セザルモノニ倍ヲ納付シ特許ヲ得ル事ヲ要ス故ニ内地ノ需用ノ格別増加ナル場合ヲ除キテハ斯ノ如キ高稅ヲ拂ヒテ内地ニ販賣

在外公館

64

156
臨
129

之製糖家、何者、利益ヲモ得ル下能ハルナリ然ル内
 地需要、年一年ト増加シ且甜菜製糖耕作方法改
 良新製糖所ノ創設等、由リ各地ノ製糖高ハ非常
 ノ増加ヲ呈シ殊ニ製糖事業ノ如キハ或範圍ニ於テハ製
 造額ヲ加超スルモ勞力其他、費用ハ其割合ニ増加スルモ
 アラザラ以テ甘蔗原料ノ收獲好ク相場低廉ナル場合ニ見
 スニ自己ノ製造高ガ法定内地販賣高ト固定貯蔵高
 ト超制スル事ヲ熟知シテガテ尚不時ノ需用ヲ頼トシ
 額ノ製造ヲ為スモ、欺テ比等ハ豫期、如ク内地需要
 ガ増加セザル場合ニ於テハ孰シ海外輸出ニ依テ其損失ヲ免
 れ外、策ヲキモトス、露國政府ガ製糖家ヲ保護スル爲
 内地消費砂糖ノ直段ヲ輸出砂糖ノ直段ニ倍從セシ内地
 消費砂糖直段ニ壹布四箇中哥海外輸出直段ニ壹箇中哥位一
 在 外 公 館

一般人民ヲシテ高價ノ砂糖ヲ消費セシルノ可否ハ余輩ノ関
 スル處ニアラズト雖亦記ノ如ク時情ヨリ時ニ據リテハ製糖家
 否露國政府ハ實際ノ製糖産量ヲ填補ニ足ル相場場ニ以テ
 剩餘砂糖ノ海外輸出ヲ謀ルベカラザル場合アルトス、故露
 國産砂糖ハ其品質、善良ナルモ拘テ尚ハ割合ニ其輸賣
 價格ハ低廉ニシテ世界製糖地トシテ有名ニ獨逸、澳、匈等
 一近巨額輸賣ヲセリ本邦ニ於ケル砂糖ノ需要ハ漸次増加
 ノ勢ヲ示シ到底今暫ク間ハ内地生産ヲ以テ全國ノ需用ヲ
 充タス事能ハルニ似タリ明治三十九年大藏省ノ調査依リ
 全國輸入高ハ合計千五百九十九萬八千八百九十四円ニ上リ其
 内二百九十三萬八千九百八十七円ハ獨逸、オーストリア、其
 百八十二円ハ澳、利南、利、輸賣ニ係ル獨逸、兩國ト
 本邦ト貿易ハ日露貿易ニ於ケルカ如ク輕視セラレ獨逸、

157
190

本邦諸港ノ定期
 航海比較的ノ頻繁ニシテ搭載貨物夥多ナルヲ以テ前記
 ノ如キ多額ノ砂糖ヲ本邦へ輸送シテ利潤ヲ見ルルヲシカ
 露國砂糖ノ獨産ニ比シテ其品質ノ劣ルモノアリシ
 ナル前途ニシテ如何外國ノ輸送價格ハ法外ニ低廉ヲ極メ
 業ニ此兩國ニ向テハ輸送シテ利潤ヲ見ルモノトセバ此際露國
 製糖家ノ企圖ニ本邦ノ輸送計畫ハ或ハ事實トナリテ
 頭ハルニ至ランカ果シテ然ラズ是久シク等閑ニ附セラルル日露貿易
 ノ前途トシテ親迎セザルヲ得ザルナリ吾人ハ切ニ此當業者ニ向テ
 露國製糖家ノ企圖ガ果シテ實行ニ値ルモノナルヤ否マヲ考
 慮シ若シ有利ト認ムルニ於テハ奮然第三者ノ手ヲ經由ス直
 接取引開始ノ舉ニ出ズニ事ヲ望ムハ絶東ノ汽船ハ義勇艦
 隊ヲ首トシテ其他ノ數隻、船舶ノ搭載ヲ待ツキアリ、若シ砂
 糖輸出ノ計畫ノ成功スルニ於テハ屬地ノ商品交換ヲ
 導クフルヲ疑ハズ(例ニ本邦ヲ輸入トシテ米、糠、雜貨生
 糸、正用紙、輸出品ニ砂糖、石油、更紗、麥粉、酒精、石
 炭、製皮等、如シ詳細ニ進テ調査ノ上當港貿易情況及
 全露國貿易情況ヲ報告スル際ニ記叙スル)今ニ該官
 ノ計畫ニ見所ノ據ニ砂糖輸出ノ見込ヲ擧グルニ在リ如キ
 結果ヲ得ル
 一 輸送砂糖布度ニ付キ露貨留置五哥即チ我意因
 五十八
 二 汽船運賃日本迄壹噸(米ニ布度)ニ付英貨五十二志即
 代十五圓七十大夫即一布度ニ付五十五圓
 三 海上保險料(原價)ニ付ト假定ニ付布度ニ付英貨五圓八先
 四 輸入税(明治廿八年七月十六日 調印日英追加條約附屬稅

在外公館

15月
32

<p>目算^四七^七據^七最高額百斤八拾ニ^七度即一^七布度^七</p>	<p>兵庫^揚及南人口^揚砂糖^揚等^揚一^揚度^揚見^揚一^揚度^揚七^揚度^揚九^揚度^揚</p>	<p>合計本邦^揚直^揚布^揚度^揚付^揚金^揚二^揚四^揚五^揚元^揚五^揚角^揚九^揚分^揚</p>	<p>右ノ計算ニ依^揚ルニ露^揚國^揚砂^揚糖^揚ハ^揚一^揚度^揚付^揚二^揚四^揚五^揚元^揚五^揚角^揚九^揚分^揚</p>	<p>本邦市場^揚ノ販^揚賣^揚シ^揚得^揚ル^揚ガ^揚如^揚シ^揚之^揚ヲ^揚獨^揚逸^揚ノ^揚輸^揚入^揚砂^揚糖^揚百^揚斤^揚</p>	<p>ニ^揚付^揚八^揚四^揚五^揚元^揚五^揚角^揚九^揚分^揚即^揚チ^揚是^揚布^揚度^揚付^揚二^揚四^揚五^揚元^揚五^揚角^揚九^揚分^揚此^揚八^揚四^揚五^揚元^揚五^揚角^揚九^揚分^揚</p>	<p>大阪^揚府^揚一^揚縣^揚編^揚纂^揚三^揚年^揚外^揚國^揚貿^揚易^揚調^揚據^揚レ^揚ト^揚比^揚較^揚ス^揚レ^揚ニ^揚尚^揚ホ^揚低^揚</p>	<p>價^揚タ^揚イ^揚況^揚ニ^揚運^揚賃^揚保^揚險^揚料^揚等^揚ハ^揚商^揚人^揚ノ^揚技^揚量^揚ニ^揚多^揚少^揚差^揚異^揚域^揚</p>	<p>ヲ^揚ナ^揚シ^揚ル^揚一^揚ノ^揚難^揚カ^揚ラ^揚ザ^揚ル^揚於^揚テ^揚オ^揚マ^揚然^揚レ^揚モ^揚以^揚上^揚ノ^揚計^揚算^揚タ^揚ル^揚ヤ^揚曾^揚テ^揚牙^揚</p>	<p>算^揚ヲ^揚執^揚テ^揚高^揚機^揚ノ^揚衡^揚ヲ^揚ナ^揚キ^揚小^揚官^揚ガ^揚机^揚上^揚ニ^揚勘^揚算^揚シ^揚テ^揚種^揚</p>	<p>過^揚キ^揚テ^揚國^揚ノ^揚邊^揚算^揚ナ^揚キ^揚期^揚ニ^揚モ^揚テ^揚唯^揚要^揚ハ^揚之^揚ヲ^揚以^揚テ^揚聯^揚カ^揚</p>	<p>當^揚事^揚者^揚ノ^揚考^揚案^揚ニ^揚資^揚セ^揚シ^揚ト^揚欲^揚ス^揚ル^揚ニ^揚</p>	<p>(終)</p>	<p>在外公館</p>
--	---	--	---	---	--	--	--	--	---	---	--	------------	-------------

159
152、125、ツツ

本編附録七編附屬

本編既稿後露國政府ハ政洲砂糖糖綿盟
國ニ對シテ左ノ如キ抗議及及附屬書ヲ回
附シテ其意ヲ從ヒテ該書ハ露國糖業
沿革及政策ヲ叙述スルハ頗ル詳密ニシテ本
編ト對照併讀スルハ露國糖業情況ハ
自ラ明瞭トナルヲ以テ之ヲ本年七月六日付
露國大藏省週報ヲ記載シテ本編附
録トナス（附録ハ總務部在ニシテ次部一捲動ノコトス）

在館

五

3-1350

0363

123

19

一、歐洲列國砂糖條約之開スル

明治三十一年十一月十三日

露國政府ノ抗議文

獨逸、奧匈、西班、大英、國、伊、太、利、和、蘭、瑞、典、等、各、國、政、府、全、權、委、員、ハ、白、耳、義、國、首、府、(ブ、ラ、ッ、セル)ニ、會、シ、砂、糖、制、度、ニ、關、ス、ル、聯、邦、會、議、ヲ、開、キ、砂、糖、輸、出、奨、励、金、及、砂、糖、輸、入、特、別、稅、ヲ、廢、止、ス、ル、ヲ、審、議、シ、千、九、百、二、年、三、月、九、日、以、テ、相、互、開、一、條、約、ヲ、締、結、シ、其、條、約、全、文、ヲ、露、國、政、府、一、通、牒、セ、ラ、レ、タ、リ、露、國、政、府、ハ、最、初、ヨリ、該、會、議、ノ、事、項、ガ、自、國、ノ、利、益、ニ、干、係、多、ク、ヤ、ル、モ、ト、信、ジ、タ、ル、ガ、故、ニ、之、ニ、參、與、ス、ル、ヲ、敢、テ、セ、ザ、リ、キ、抑、モ、露、國、ハ、現、今、公、然、又、ハ、陰、然、奨、励、金、ヲ、與、ヘ、テ、砂、糖、ノ、外、國、輸、出、ヲ、保、護、ス、ル、ヲ、露、國、ニ、於、テ、內、地、市、場、一、販、賣、ス、ル、砂、糖、ニ、對、シ、制、限、法、ヲ、規、定、ス、ル、モ、ハ、之、レ、由、テ、一、方、ニ、於、テ、ハ、砂、糖、ノ、溢、出、ヲ、禦、テ、地、方、ニ、於、テ、ハ、內、地、製、糖、ノ、價、格、ヲ、漸、次、低、廉、ナ、ラ、シ、メ、依、テ、以、テ、消、費、額、ヲ、增、加、セ、シ、メ、タ、リ、目、的、ニ、外、ナ、ラ、ズ、今、聯、邦、全、權、委、員、ノ、決、議、ヲ、以、テ、白、耳、義、國、政、府、ヲ、送、付、通、牒、條、約、又、據、シ、聯、邦、條、約、國、ハ、砂、糖、製、造、若、シ、ハ、砂、糖、輸、出、奨、励、金、ノ、賦、與、ス、ル、生、糖、國、ノ、砂、糖、ニ、對、シ、特、別、稅、ヲ、賦、課、シ、(第、四、條)及、右、締、盟、國、ヲ、輸、入、ス、ル、砂、糖、ニ、對、シ、最、大、額、ノ、稅、率、ヲ、適、用、ス、ニ、キ、ヤ、リ、規、約、セ、ラ、レ、タ、リ、且、之、ニ、於、テ、露、國、政、府、ハ、其、親、交、國、間、ニ、條、未、發、生、シ、得、ベ、キ、紛、議、ヲ、豫、メ、回、避、ス、ル、爲、メ、該、條、約、ノ、實、施、ニ、先、テ、茲、ニ、本、問、題、ニ、關、ス、ル、自、國、政、府、ノ、意、見、ヲ、明、晰、ニ、開、陳、ス、ル、ノ、必、要、ヲ、感、ジ、タ、リ、

露、國、ハ、ブ、ラ、ッ、セル、列、國、會、議、ニ、干、與、セ、ル、各、國、ト、同、ニ、曾、テ、通、商、條、約、ヲ、締、結、シ、居、レ、ル、此、通、商、條、約、ニ、據、シ、露、國、ノ、製、糖、產、品、ニ、對、シ、テ、各、國、ハ、最、惠、國、ノ、製、糖、產、品、ニ、對、シ、テ、異、ナ、ル、カ、又、之、ヲ、多、額、ノ、稅、金、ヲ、課、ス、ル、ヲ、得、ガ、ル、ナ、リ、而、シ、テ、此、最、惠、國、條、款、ノ、

在外公館

54

124

原則ハ何等ノ制限又ハ何等ノ條件ヲ包含セザルガ故ニ露國
 政府ハ自國ノ輸出入砂糖ニ對シ前記締盟國ガ本條約ニ
 基キ多額ノ稅率ヲ適用スルニ於テハ他日縱令露國ガ輸出
 砂糖ニ對シ獎勵金ヲ賦與スル場合有リトスルモ尚ホ以テ現行
 通商條約ノ違反ト目テ得ザルナリ若シ締盟國於
 本會議議決議ヲ露國ニ適用スルモト假定シ且假令右
 締盟國ト露國ト間ニ存スル現行通商條約中ニ外國輸
 出砂糖ニ獎勵金ヲ賦與スルニ關スル特別ノ規定カ留
 保セザル場合ト假定スルモ露國政府ハ尚ホ該決議ヲ
 以テ現行通商條約ノ違反ト爲サザルヲ得ザルナリ何トナレハ
 露國政府ハ當ニ外國輸出入砂糖ニ獎勵金ヲ與ハザルニシテ
 當ニ民間ニ砂糖組合ガ組織セザレ各地製造家ヲシテ外國
 輸出入強制スルノ規約ヲ設ケザルニ方イテ露國政府ハ之
 在 外 館

解散ヲ命ジレバ内地製造制限法ナルモノヲ制定
 シタル事實存スルナリ而シテ此制限法ノ目的ハ彼レシテ
 ケートノ組織ニ於テ往々免レ難キ所ノ市價ノ昇進ヲ豫防
 シ之ニ依テ砂糖ノ市價ヲ漸次低廉ナラシメテ内地消費
 額ヲ增加スルニ在リキ若シ夫レ茲ニ一ノ組合ガ組織セザレ或
 物品ノ内地販賣ヲ制限シ其過剩品ヲ海外市場ニ輸
 出スルニ由リテ人為的ニ市價ノ昂進ヲ企圖シ製造家
 ガ外國廉價輸出入ニ由テ蒙ル所ノ損失ヲ補贖スルモノ
 ナラバ此等ノ行爲ハ即チ暗々裏ニ而シテ輸出獎勵トシ
 テ見ルニ得ベキナリ然レモ之レニ反シ政府ニ於テ此種ノ組
 合ヲ解散シ政府自ラ内地製造業ヲ監督シ市價ノ
 統一ヲ謀ルニ動搖ヲ豫防シ組合ノ如ク市價ノ
 昂進ヲ求メズルニ却テ其依減ヲ謀ルモノアラバ其結果製

造家、海外輸出を以て生ずる所、損失を填補スル基金ヲ有セザ
 ル、依り勢に海外輸出ノ念ヲ絶ツ、且下今時、内地消費高、
 増進ニ伴ヒ生ズル所、市價、低廉、鑑ミ其生産費ヲ解
 贖シ得ル、程度ヲ以テ適宜其業務ヲ整理スルニ至ルハ自
 然ノ趨勢ナリトス、而シテ此等場合、於テ尚ホ砂糖ノ海外
 輸少ヲ見ル場合アリトセバ其ハ單ニ製糖原料ノ豐作ニ
 基ク一時ノ現象ニ過ギズシテ之レヲ全國ノ製産高ニ比較スル
 ニ酷ク少ク數量タルニ過ギザルナリ、而シテ現今露西更ニ於
 テ行ハル、砂糖制度コソ即チ以上叙説シタルモノ、外ナラズシ
 テ其目的トスル所ハ内地消費者ニ對シテハ市價ノ暴騰ヲ
 豫防シ製産家ニ對シテハ市價ノ暴落ヲ庇護スルニ在リ
 トス、此制、幾分ク之ニ依テ内地ノ經濟状態ヲ
 鞏固ナラシムルヲ期スルニ在ルモ決シテ之ニ依テ外國製糖業
 在 外 館
 直接又間接ノ妨害ヲ加フル目的ヲ有スルモノニアラズ、前題
 ノ理由ニ依リ露國政府ハ彼ノ「ラッセル」會議ノ決議ハ單ニ砂
 糖輸出奨励法ノ存スル 邦國ニ對シテハ適用セザルベキモノニシテ
 露國ニ對シテハ之ヲ適用スベカラザルモノト思惟ス、然レモ若シ前
 題締盟國ニ於テ前段叙説スルガ如キ方法、因リ政府が製
 産業ヲ制限干渉スルヲ以テ萬國貿易ノ權衡ヲ紊シ又
 前題記述シタル如キ方法ニ因リ政府が内地市價ヲ保護ス
 ルヲ以テ萬國市場ノ競争上ニ於ケル自然的進行ノ妨害
 スルヲ認メラルニ於テハ其理由ヲ垂ルセザルニテ請ハルヲ得ズ、幸
 ニ其理由ニシテ明晰ニ說明セザルニ於テハ露國政府ハ外國ト
 協同一致シテ彼ノ萬國互市場ニ於ケル人爲的行爲ヲ防遏
 スルニ足ル所ノ諸般ノ方法ヲ審議討査スルヲ辭セズト雖モ露
 國政府ハ本問題ニ關スル討議ノ細目ヲ擴充補足スルニ

工



126

非レ之ガ協議ニ參與スルコトヲ欲セバ、換言スルニ審議ノ事項ニ當
 ニ政府ガ直接獎勵金ヲ賦與シ又ハ製産業ニ對シテ制限法
 ヲ設定スル結果如何ヲ討議スルニ止メ、尙ホ一歩ヲ進メ各國
 政府ガ黙許シ又保護スル所ノ各般ノ組合業ノ利害如何ノ問
 題ニ涉リテ改定審議ヲ遂ゲ列國協議ノ範圍ヲシテ糖
 ニ止メシメズ延シテ現今通商貿易上於ケル顯著ナル他ノ商品
 ニモ均シク及ボザルコトヲ欲スルモノナリ
 露國政府ガ本問題ニ就キ懷抱スル意見ハ前陳ノ如クナレテ以
 テ刻下萬國互市場於ケル砂糖及其他ノ商品ガ人爲的
 ニ其市價ヲ下落スルコトヲ防遏セント欲セラル列國政府ハ必不
 露國政府ノ希望ニ副シ本件ニ關シ協同一致ノ嚮作ニ出カ
 ルコトヲ辭セザルベキナリ

在外公館

稅議文附屬書

附屬書

現今露國政府の製糖業に關し採用スル所ノ整理方法ハ
 當ニ直接又間接ニ獎勵金ヲ賦與シテ砂糖ノ外國輸出ヲ
 増進スル目的ヲ有セザルノミナラズ却テ其整理方法一結果ト
 シテ現今制限法(千八百九十五年十一月二十日發布)以前ニ實施
 セル所ノ輸出獎勵法ナルモノヲ排斥スルヲ以テ其趣意トセリ
 抑モ露國ニ於テ製糖業ガ特ニ顯著ノ發達ヲ告ケルニ至リ
 ノルハ千八百八十五年頃ヨリトス此時ニ方リ砂糖ノ産額遂
 ニ内地ノ需用額ニ超過セリ然レ其當時ハ未ダ外國市場
 へ輸出ノ道開キザリシ爲メ砂糖市價ハ非常ニ下落スルニ至リ
 此ニ於テケ政府ハ製糖家ノ請願ニ基キ千八百八十五年七月
 十二日付ノ勅令ヲ以テ數量二百萬布度ヲ限リ外國へ輸出ス
 ル砂糖ニ對シ内地稅ヲ返還シ且ツ輸出砂糖一布度ニ付
 一留宛獎勵金ヲ下附スルヲ規定シ其後同年十一月一日ニ
 及ニテ獎勵金下附ノ制限高即チ二百萬布度ノ砂糖ハ
 業ニ輸出ヲ行ハザルニモ拘ハズ砂糖ノ市價ハ益々低落ノ
 勢ヲ示シタレバ政府ハ同年十一月九日付ノ勅令ヲ以テ該法令
 ノ有効期限ヲ千八百八十六年五月一日迄トシ尙ホ更ニ同年七月
 一日迄延期スル事トナセリ但シ之ト同時ニ輸出獎勵金ヲ一
 布度ニ付八十哥ニ減少セリ而シテ本令ニ據リ砂糖輸出
 者ハ下附セル獎勵金額ハ千八百八十五年度ニ於テハ二百十三
 萬四千四百五十三留千八百八十九年度ニ於テハ四百六十四萬二
 千三百六十二留ニ達セリ
 千八百八十七年ニ至リ製糖家ノ間ニ團結ヲ作り相互間
 ニノ規約ヲ設ケ法定砂糖製造高ノ一部ヲ殺ギテ之
 ヲ外國輸出ニ充テ且一定ノ輸出期限ト各自ノ分擔額

在外公館

120

トヲ指示シ若シ該期限内ニ其指定サレタル額ヲ輸出セザルモ
ニ向テハ其殘額砂糖ニ對シ一布度ニ付二留五十哥ノ違
約金ヲ徵スルヲ規定セリ(此組合ニ加入シタルハ初年ニ在リ三百
七十二人(當時製糖家ノ總數ハ二百十九人)次年ニ在リ三百六人
製糖家ノ全數二百十人)

此同盟規約ハ遂ニ砂糖濫製ヲ防遏スル目的ヲ奏セザリキ
蓋シ該加盟者中ニ往々其約束ノ履行ヲ怠ルモノアリ又
之ニ加入セザル製糖家アリ且ツ組合組織後ニ創立セザル
優力ノ製造所ノ如キハ該規約ニ羈束セラレザリシガ故ナリ然
ルニ千八百九十五年ニ至リ獨逸佛蘭西及奧匈等ノ諸國
於テ輸出砂糖ニ對シ獎勵金ヲ賦與セシ爲メ右等諸
國ヨリ輸出スル砂糖ハ頗ル増進シ其結果外國市場於
テ砂糖市價ノ低落ヲ招キタルニ我製糖家ハ其變動カ

在外公館

將來自國ニ波及セシムルヲ憂慮シ大蔵省ニ向テ政府ガ此際
製糖家ノ保護ヲ厚クシ糖業ノ整理方法ヲ講ジ過剩
砂糖ヲシテ強制的ニ外國市場ニ輸出セシムルノ方法ヲ設
クルニ關シ應分ニ幫助ヲ與ヘンヤリテ請願シタリキ

此問題ニ關シ露國政府ノ執リタル態度ハ極メテ慎重ナルモノナ
リキ政府ハ本問題ノ調査ヲ了スル爲メ勅裁ヲ經テ特別委
員會ヲ國議院内ニ設置シ始メ樞密顧問官ブングケヲ以
テシレガ會長ニ任命シ而シテ同官ノ逝去後ハ國務卿(不
タートセクレタリ)ソリスギー之ニ代リテ該會々長ノ任ニ就キ專
ラ本問題ノ骨子タル論点下之ニ關スル政府干渉ノ基礎ト
ラ研究スル爲メ重ナル貿易高ヲモ該會議ニ參與セシメ
タリ而シテ該會ガ砂糖業ノ過去現在并ニ從來製糖家
ガ大蔵大臣ト交渉セシ事蹟等ヲ參照シ調査シタルモノニ由テ

56

129

之ヲ見ル。我大蔵省ハ之ヨリ前外國輸出砂糖獎勵金件
ニ關シテハ既ニニニノ高業會議所ニ向テ下シタル訓令ニ於テ明
ニ其方針ヲ指示シ居レリ即チ千八百八十六年三月十九日付第
百九十八号ヲ以テキレエフ。ケリヨフ。ワルセヨフ。三高業會議所
ニ移牒セシ訓令ニ曰ク大蔵省ハ爾今巨額ニシテ而モ不銷却
的ナル獎勵金下附ノ問題ニ關スル請願ハ受理シ難キモト認
ムルニ因リ茲ニ省議ノ存スル所ヲ指示スベシ抑モ政府ガ從來輸出
砂糖ニ對シ下附シ且ツ目下尚ホ下附シツアル獎勵金ナルモノハ本
年度間即チ千八百八十五年一千八百八十六年間ニ産出スル過
剩砂糖ヲ市場ヨリ驅掃スルノ趣意ニ基テモリナルガ故ニ此獎勵
金ハ之レヲ永遠ニ持續スルヲ能ハザルモノトス蓋シ通常獎
勵金下附スルノ目的ハ特ニ生産ヲ鼓舞獎勵スルニ止マリ
決シテ之ニ依テ外國市場ニ於テ我商品ガ優勢ヲ占ムルヲ
目的トスルニアラス故ニ輸出砂糖ニ對シ獎勵金ヲ交附スル
ガ如キハ稍ニ常規軌ヲ逸スルモノニ似タリ去レ其ハ輕ク之ヲ
論ゼトスルモ此種ノ獎勵金ハ結局無効ニ歸スルヲ免レズ特
ニ之レヲ刻下ノ形勢ニ照シテ替ワルニ西歐諸國例ニ獨逸
佛蘭西埃地利等ノ諸國ガ下附スル獎勵金タルヤ遙ニ我
國ノ金額ニ超過シ到底之レト拮抗スルヲ得ザルナリ由來
大蔵省ニ於テ内國製産業ヲ保護スルハ自國ノ需用ニ應
ズル丈ノ製産品ヲ内國市場ニ供給セシムルニ在テ存ス彼ノ自國
ノ消費者又ハ國庫ノ費途ヲ以テ外國消費者ノ爲メ底
廉ナル砂糖ヲ供給スルガ如キ決シテ其主意トスル所ニアラス
之ヲ以テ大蔵省ハ將來製出スル砂糖ヲ歐洲市場ニ輸出
スルニ當リ當事者ガ獎勵金享受ノ觀念ヲ懷カザランコ
ト欲シ茲ニ豫メ此事ヲ通牒スルノ必要ヲ感ズ云々

在外公館



130 遺稿

前頭大蔵省ノ見解ト殆ト同一轍ノ觀テル意見書ハ千八百九十五年ノ協議會ノ報告ヲ以テ發表セラレタリ、即チ其報告書ニ記シテ曰ク本會議ハ外國輸出砂糖ニ對シ人爲的獎勵ノ性質ヲ帶ブル所ノ如何ナル方法ヲモ採用スルヲ以テ不可ト認ム斯ル人爲的輸出ハ之ヲ獎勵金ノ側ヨリ觀察スルニ國庫ノ負擔トナリ之レヲ市價昂騰ノ元因トシテ見ルニ依テ内地消費者ノ間接負擔ヲ増テ同一ナレバト加シ之ヨリ釀ハレタル現時ノ悲境ヲシテ却テ永遠ニ之ヲ繼續セシムル結果ヲ招ケバナリ云々

前述ノ如キ意見ハ即チ砂糖制度ニ關スル現行法律ノ基礎トシテ見ルヲ得ベキナリ、露國政府ハ内地製糖業ノ制限法ニ關スル事務ヲ自ラ管掌スルヲ及テ法律ヲ以テ

在 外 公 館

毎年内地市場ニ販賣スル砂糖ノ一定數量ヲ指定シ此種砂糖ノ對シテハ壹布度ニ付壹留七十五哥ノ普通内地稅ヲ課シ制度以外ニ市場ニ販賣セントスル所ノ其他砂糖ニ對シテハ普通内地稅ノ外之トシテ額ノ附加稅ヲ重課シ壹布度ニ付合計三留五十哥ヲ徵收スルヲトシ又政府ハ前述ノ方法ニ依リ一方ハ製糖家ノ希望ヲ滿タスト同時ニ他方ニ於テハ市價ノ暴騰ヨリ内地消費者ヲ保護スルヲ必要ト認メ法律ヲ以テ毎期間ニ於ケル砂糖賣買買直錢ヲ指示シ若シ市價ガ該直錢ニ超過スルハ大蔵大臣ハ命令ヲ以テ貯蓄倉庫ヨリ制限外ノ補助給ヲナスヲ許可シ而シテ補助砂糖ニ對シテハ普通内地稅ノ徵收スルヲ規定セリ

總テ各地製造所ヨリ外國ニ輸出スル砂糖ニ關シテハ内地

131

稅及附加稅ヲ免除ヒリ是レ内地稅、内地消費者ニ對シ課
 稅ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ若シ是レヲ輸送砂糖ニ對シ課
 稅スルニ於テハ其性質ヲ一變シテ輸出稅トナルガ故トス而シテ
 内地市場ニ販賣スル砂糖ノ數量ハ固ヨリ之レヲ各製造
 所ノ製造高ニ應ジテ割當ツルモノナリト雖モ製造所ハ各
 地ニ散在シ其中ニハ外國輸出ニ便利ナル地位ヲ占ムル者
 あり或ハ專ラ内地市場ヲ目的トスルモノアルガ故政府ハ各製造
 所ヲシテ内地販賣スル砂糖ヲ相互間ニ融通讓與スル便
 ヲ與ヘリ隨テ利益ヲ内地販賣權ヲ他ニ讓與スル製造所
 ハ其報酬トシテ或ル利益ヲ受クルハ固ヨリ妨ガザル所トス而シテ
 此融通方法ノ存スルニモ拘ラズ内地市場ニ供給スル砂糖ノ數量
 ニ至リテハ絲毫モ増減スルモノナラズ故ニ若シ皮相的ニ或ル製造
 家ガ外國ニ輸出スル砂糖ノ分量益々多キヲ加ハル隨ヒ他
 在 然 公 館
 ノ製造所ガ單ニ壹留七十五哥ノ内地稅ノミヲ納ムルニ由テ内
 地市場ニ販賣高ヲ無限ニ加超シ得ルガ如ク想像スルモノアラ
 バ大ニ事實ヲ誤ルモノト云ハザルベカラズ蓋シ該融通方法タル
 ヤ決シテ外國輸出砂糖ヲ獎勵スル目的ヲ有スルモノニアラズ又
 萬國市場ニ其販路ヲ擴張スルノ階梯タルニシテ目的ニモア
 ズ單ニ自然的地利ト經濟上ノ状態トヲ基礎トシテ内地産品
 ヲ内外市場ニ分配スルノ一圖ニシテ企圖セザルニ便法ニ過ギ故
 ニ彼ノ輸出許可書ニ由テ受クル支拂ノ如キハ之ヲ自ラニ問
 接獎勵金ヲ以テスルヲ得ザルナリ之レヲ要スルニ此融通方法
 ハ内地市場ノ羈束セザルニ爲メ製糖家ガ工夫セル所ノ一種
 整理方法タルニ過ギザルナリ今試ニ獎勵法ノ意義ヲ擴
 張シテ獎勵金ノ範圍ハ政府ト干係ナク一ノ私設製造所
 ヨリ他ノ製造所ニ向テ爲メ所ノ一定金額ヲ任拂フ包

58

含スルモノト假定セシカ此宏義ノ解款ニ從テモ尚ホ彼ノ輸出奨
勵ノ意義ハ單ニ輸出増進ヲ幫助スル場合ニ限リ適用
レ得ベキモノトス然ラバ即チ露國ニ於テ行ハレ彼ノ輸出許可證
賣買ノ如キハ唯ク一製造所ガ已ノ輸出スベキモノヲ他ノ製造
所ト交換ノ便ヲ謀リタルモノト見ルル外ナラズナリ

前述ノ如ク政府ガ製糖業ニ干涉セシ以來砂糖制度ノ主
義トスルモノハ回來ノモノト全ク其趣ヲ一變セリ目下所ハ政府ハ
内地市場ノ販賣高ヲ制限シ砂糖ノ濫造ヲ御キ輸出奨
勵金及強制的外國輸出入法ヲ全廢シ特ニ消費者ノ利益ヲ
謀ル爲メ製糖家ニ命スルニ固定貯蓄ノ義務ヲ以テ且輸
出ニ向ケラレタル過剩砂糖ノ一部ヲ殺キテ固定貯蓄ニ充テ
メ又内地ノ販賣ニシテ砂糖額ヲ漸次ニ増加スルヲ謀リ又取引
前數ヶ月間ニ於ケル賣買直段ヲ指定シ而モ其直段ニ過

在外公館

剩砂糖ノ多寡ニ拘ラズ又外國市價ノ高下ヲ問ハズ專ラ内
地ノ市價ノ低減ヲ期スル目的ヲ以テ之レヲ定メタリキ
前段叙説セル砂糖濫製豫防法及糖業消長ニ急劇
影響ヲ與ヘル範圍内ニ於ケル市價ノ逐減并ニ内地消費
額ノ自然的増加等ヲ現行砂糖制度ノ基礎タル根本的
問題ヲ網羅スルナリ彼ノ外國輸出一事ノ如キハ現行下事
砂糖制度ノ目的トスル所ニアラズ又其保護スル所ニ
アラザリ況ニ現制度ノ下ニ在テ砂糖輸出ノハ之レノ回來
ニ比シ甚ダ不利益ニ條件ヲ有タル於テハ千八百九十三年發
布スル法律ノ示ス所ニ據テ歐州市價ニ於ケル砂糖市價ガ
累進シ製糖家ガ其機會ニ乘ジ輸出ヲ謀ル爲メ多量
ノ製造ヲ企圖スル場合ニ於テ政府ハ輸出砂糖ニ對シ特
内地稅ヲ附課スルヲ得ル規定セリ一砂糖内地稅徵收法第



九條ノ註

露國ノ市場ハ制限法ノ存スル爲メ砂糖ノ需用ガ如何裏
 進スルモ決シテ市場ニ危機ヲ招ク虞アルナシ故ニ此点ニ於テハ
 外國市場ニ比シテ遙ニ利益アル地位ニ立ツモノニテ畢竟スル
 找市場ニ於テ露國砂糖ガ獎勵金ヲ享受スル他國砂糖
 ト競争シテ優ニ餘力ヲ有スル此ニ原因ニシテ謂フヘキナリ
 百九十五年十一月二十日發布ノ法律制定以來找製糖業ハ
 漸ク内地消費ニ向テ扶順的進歩ヲ顯ハス至レリ而シテ外國
 輸出ノ如キハ糖業ノ變動極ニナキ有様ト制限法ガ必要トスル
 所ノ不抜固定ノ規律トシ基キ發生スル所ノ不權衡ヲ鐵固ニ
 ノ手段ニ外ナラズ隨テ政府ハ固ヨリ之ヲ保護獎勵セザルニシテ
 製糖家自身ニ在リテモ偶々之カ爲メ却テ損失ヲ招クモ欺
 テガナリ之ヲ要スルニ於テ輸出砂糖ノ内銷利益アルト認メラル
 在 外 公 館

一、亞細亞國境ニ於ケル輸平均高

千八百九十六年—千八百九十七年	百五萬三千布度
千八百九十八年—千八百九十九年	百四十七萬七千布度
千八百九十四年—千八百九十五年	百九十九萬五千布度
千八百九十年—千八百九十一年	二百六十六萬五千布度
千八百八十六年—於ケル亞細亞國境ノ砂糖輸出ハ僅ニ五十萬	
九千布度ニシテ之ヲ歐洲國境ノ輸出高三百三十二萬三千布度ニ	
スルニ倍ノ少數ナリ而シテ千九百一年ニ二百九十二萬六千布度ニ	
達シ即チ此時ニ於テハ既ニ歐洲國境ニ輸出二百八十七萬四	
千布度ニ超過スルニ至レリ歐洲國境ニ輸出高ハ極メテ變動	
多ク千八百九十三年ノ輸出ハ百十萬布度ニシテ千八百九十六年ニ	



134

一九〇一	二八七四〇〇〇	二九二六〇〇〇
一九〇〇	六九一五〇〇〇	三〇五二〇〇〇
一八九九	三四〇五二九五	二九二七六七三

二千百五十萬六千布度ニ増進シ千八百九十九年ニハ三百四十萬
 五千布度千九百年ニ更ニ六百九十萬五千布度ニ昇リ而シテ
 千九百一年ニ二百八十七萬四千布度ニ低落セリ然リ而シテ
 乾迄ノ四年間即チ千八百九十八年ヨリ千九百一年ニ至ル平均
 輸出額ハ四百十九萬七千布度トス又最近十六年間即チ
 千八百八十六年ヨリ千九百一年ニ至ル平均輸出額ハ四百六萬
 五千布度ニシテ各年ヲ通シテ殆ド其平衡ヲ持セリ蘇テ内地
 市場ノ砂糖發賣高ヲ見ル前記十六年間ニ於テ二千
 萬布度ヨリ四千萬布度ニ昇リ即チ二倍ノ増加ヲ示セリ
 亞細亞國境ノ輸出ハ六倍ヲ増加シタリキ之レヲ要スルニ歐州
 國境ノ輸出ハ一定ノ平均額ヲ維持シ而シテ其數量ハ今日慶
 三ハ全國製造高ノ僅ニ百分ノ三ヲ占ム之ニ反シ獨逸ハ
 全國製造高ノ百分ノ五十八塊地利ハ六十三佛蘭西ハ六
 十七ヲ占ムリ是ニ依ラシテ觀ル露國ニ於テ發達シツアル製
 糖業ハ自國ノ産品ヲ内地市場若シハ亞細亞市場ニ
 販賣スルヲ以テ其主眼ノ目的トシテ經營セラル者ニシテ歐
 州諸國ノ市場ノ如キハ單ニ一時ノ過剩品ノ仕向地トシ過
 ギス又其該地方ノ輸出ハ稍々損耗ニ近キ直般ヲ以テ取引
 ヲ爲メ次カタルヲ以テ露國ハ其利益ヲ保持セル爲メ各般ノ
 方法ニ由リ其損耗ヲ避クルヲ努メガルベカラザルナリ

露國ノ製糖精製糖及糖蜜ノ輸出高
 年次 歐洲 亞細亞

手
 頁

135 止

一八九八	三九四四九七一	六一五七、六五五
一八九七	四九八、八三〇四	二七、九一四
一八九六	一一、五〇六、五五六	一九四、二七〇
一八九五	三八七、六七六	一七、二二五〇
一八九四	三、九七、八五四	一、五三三、九一四
一八九三	一、〇〇、一九六	一、五三三、九一
一八九二	一、五八三、七三三	一、三九九、七七四
一八九一	五、七四四、三八一	一、八〇〇、七八八
一八九〇	一、六四〇、九七五	一、五九六、五二二
一八八九	三、五二〇、九七一	一、四三三、二七九
一八八八	四、三二九、四三八	一、二八〇、〇〇一
一八八七	三、五八二、三八三	九九〇、五五九
一八八六	三、三三三、一六六	五〇、九三三七

在外公館

160

文書課

明治卅五年十一月四日接受

99

整理

天

明治卅五年十一月五日
同日發進

田原長

之九〇

珍田後務長官

市廣農市務後務長官

坂谷大藏後務長官

古澤記辨府

西國製糖業三國之件

外務省

露國製糖業三國之報告書並露國

和國砂糖修約之關係露國政府ノ抗議

書本附本書譯文等今般オデンサ飯島

欣事ヲ提出致付通高島野原系

二三三十五七號一揚載致主先官委曲

ハ大ニ了了悉切所好程度此水屬

會運

明治卅五年十一月四日

四月三日報告部受

明治廿六年四月三日發送
報送第一一〇號

明治廿六年一月十四日

信才三ノ附

ガる砂糖条約ニ関スル露國抗議續報

五九五

官報掲載済

通商彙纂

改訂通商彙纂

官報部送付済

元月官報掲載

露國政府ハブラジモ砂糖条約締結國ニ對シテ
 回文ヲ寄セ據テ注意ヲ促シテハ其後七月
 二十一日付付十七日採信ヲ以テ報告致置候然ル
 其後該件ニ関シテ何等ノ消息ソモ再聞
 露國政府ハ往復書翰ヲ掲載シ其後成行
 報直致候右ニ於テ今回ハ兩國政府トモ事實
 問題ノ討議ヲ待テ專ラ法律的見地ニ由リテ
 是非ヲ論辨スルコトヲ如ク而シテ露國政府ハ最惠國
 條款ノ解新ハ理論トシテ稍ヤ傾軋スルニ足ルコト
 在外交
 小モ君考ニ候但シ露國政府ハ常ニ最惠國
 條款ヲ重視シ締結國ニ對シ其言明ク主義
 之注ヒ嚴格ニ之ヲ履行シ義務ヲ果シスヤ否ヤハ
 頗ル注意ヲ要スルコトニシテ將來日條款ノ解新
 ニ関シ日露兩國間ニハ斯ル問題ハ開始セルニ
 堪合ナキニアラハルヲ以テ此際露國政府ハ見解ヲ
 知悉スルコトハ後日參考ノ資ニル所ナリ有テ思
 考ニ致候事茲ニ該書翰ノ大意ヲ露國官報
 中ニ摘譯シ報告スル候得又露國ハ回文ニ對
 シ回答ヲ與ヘタルモノハ露國政府ノミニシテ他ノ列國ヨリハ
 未ダ何等ノ回答ニ為ラズ有年候高キ日英
 國下院ノ討議録ニ於テ往年英領印度政府
 が露國砂糖ニ對シ追加税ヲ附課シタルニ露國

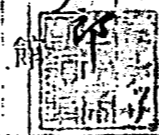
政府が条約違反トシテ抗議ヲ申上ルニ際シ
 英國政府ハ露國政府ニ於テ自己ノ解新ノ固執
 シ異議ヲ唱フルニ於テ英國政府ハ現行ニ通商条約
 ツ廢棄スルヲ敢テ拒マスト至張ニタルモ露國政
 府ハ其右ニ関シ何等ノ回答ヲモ爲サレル趣ヲ相見
 條ハ結局存問題ニ對スル英國政府ノ意
 思ハ倒序條約廢棄ヲ見ルニ至ル場合アリトモ自
 己ノ解新ニ関シ一歩モ譲ラサル決心ヲ有スルモ
 ノ如キ有テ條約不_今後存件ノ成行ニ関シテハ
 追時報道ヲ懈ラサルニ在リ及報告原故具

明治三十五年十二月十四日

在オテマリ

領事 飯島 龜太郎

在外公館



外務大臣男爵小村壽太郎殿

本年三月^五日ブラッセル砂糖條約、規程に對して
露國政府は該條約締結諸國に向て一公文書を
送り而して其公文書の當て報復せしむるに
公文書に對して回答するにハ早、英國政府は
七月三日(露曆十七日)に以て左、意を
示す
千八百九十八年、ブラッセル砂糖會議、翌年、於て
英國印度政府は日地方へ輸入する露國の砂糖に
對して追加税を課せしむるに露國政府は此措置に
對して抗議を爲し、英政府は千八百九十九年

在外公館

七月十五日付公文書にて露國は於て砂糖制度は
人為的、斯業の發達を獎勵する目的の外ナラズ
其獎勵もや事實上輸出に對して直接、保護
の一結果として導くが故に之に對して追加税
を課せしむるに最惠國條款に違反するに
對して能ハサル旨を主張し、而して英國政府は論據
を以て其意ハ該公文書に詳細に述べしむるに
露國政府は之に對して回答するに、
英領印度は於てハ白國政府が更ニブラッセル
會議に對して、
徵收する實行に來り、英國政府は露國政府が該
會議に代表者を送りしむるに對して、
何れに對して代表者を送らざるに該委員は必スヤ

露國、於此砂糖業、事情ヲ適切ニ辨論ニ且テ
 自國、利益ヲ保護スルヲ得ヘキニ以テナリ
 事情斯、如クタルヲ以テ該會議ハ再々露國、協同ヲ
 欲タスニテ砂糖輸出ニ關スル種々方法ヲ研究スル
 必要ニ迫リ其結果トシテ列國間ニ一極高ク議決
 スルニ至リ、露國政府、知悉ニ行ナリ其議決ニ
 心中ニ快勵ナル者ハ増課稅率 (SUGAR TAXE) 下
 存立レ得ヘキトシテ議決ニ詳言スルニ周稅ト内地
 稅ノ間、於此差異ガ一定ノ制限ヲ超過スル場合
 即チ糖精製糖百基ニ付六法、粗製糖百基ニ
 付五法五〇參ヲ限、且トシテ是以上ノ過稅率ナル
 中、直ニ獎勵係復ル見做スヘキトテ規定ス、而シテ露
 國ニ於テ周稅ハ百基ニ付九七法七〇參ニシテ内地
 稅ハ百基ニ付二八法ナリ故、露國、於此周稅ノ過上ハ
 百基ニ付六九法六〇參ニ相違スル者ナリトス
 本年三月五日ブラッセル砂糖條約オ七条、規程ニ
 於テ英國政府、日會議ニ參列ヒシハ諸國ニ於テ砂
 糖ニ關シ獎勵金ヲ附與スルヤ否ヤ果シテ附與スルニ於テ
 如何ナル程度ヲ以テスルヤヲ審查スルノ目的ヲ以テ列
 國委員ヲ設置スルヲ建議セリ、而シテ英國政府ハ
 此問題、更ニ審議セリ、且、露國政府ハ或ハ
 該會議ニ參加セラレシトテ希望セリ、何トナレバ該會
 議ニ加名セラル各國ハ何時ヲトモ之、加盟スル、格利ヲ
 有スルヲ以テナリ、然レモ早ニ之ニ該條約ハ既ニ批准
 セシ列國委員カ露國、於テ現存スル砂糖制度、抽
 查、結果、日國、於テ尚保護制度、存在セリトテ查

在外公館

(Taxe Supplémentaire)

7

定シタル以上、英國政府は露國砂糖に對シ制裁
 条項ヲ適用スル外ナキナリ、而シテ比處置スル決シ
 テ千八百五十九年一月十日、露英通商条約規
 程ニ違フシタルモノニテ又此ノ所謂一經開港即チ
 單ニ砂糖業ヲシテス總テ輸出獎勵ヲ享有スル
 工業品若クハ政府ニ於テ維持若クハ保護シツル組
 合業、因テ事項ヲ研究調査スル提議ニ関シテ
 以前述ノ理由ニ依リ英政府ハ該會議ニ参入スルヲ能
 カザルヲ惜ミ蓋シ英國政府ハ信スル所、此ノ現今
 比問題ニ付該會議ヲ開始スルモ實際上海等
 ノ好結果ヲ得スル可キヲ信スルハナリト
 右ノ回答ニ對シ露國政府ハ九日申ク存意味、於テ
 覆答ヲ與ヘタリ

在外ハハ館

千八百九十九年、英領印度政府ハ露國糖下、砂
 糖ニ對シ追加稅(Taxe Supplémentaire)賦課シタル時露國政
 府ハ此措置ニ對シ口固ニ於テ、砂糖輸出ニ付如何ナル
 獎勵金ヲ附與スル又存如何ナル獎勵金法ヲ存在スル
 場合ニ於テ露國ノ砂糖ニ對シ追加稅ヲ課スルハ
 千八百五十九年一月十日(露曆十二月三十日)露英各約
 章文ト見認ハキテ、論加トシテ抗議スル必要ヲ感シ
 タリ、露國政府ハ本年七月一日(露曆六月三十日)付
 公文、於テ前述ノ趣意ヲ詳悉シ且ツ其公文付屬書
 中明瞭ニ露國ニ於テ砂糖輸出ニ對シ肉格不直
 持ニ獎勵金ヲ附與セザルヲ辨明スル是ニ於テ露國
 政府ハ露國ノ抗議ニ對シ回答トシテ單純ニ露國
 ニ於テ採用セシムル砂糖制度ハ斯業條達ニ關ス



ル人爲的獎勵法ニテ其獎勵法タル事実上直接
ニ輸出獎勵法ト曰様ナシ結果ヲ有ルカ致シ追加
税ノ賦課ハ最惠國條款ノ主義ニ違フヒカモナ
リト論述セシメシテ一五五〇年七月
三十日(露曆十七日)付外務大臣ノ書翰

抑ハ最惠國條款ノ目的ハ錫ア、商品ニ對シテ一様
ノ待遇ヲ保証スルニシテ決シテ最惠國カ有ルニシテ
多ク利益ヲ有ルニシテ保証スル目的ニテ之ヲ
シ、多分ノ利益ハ最惠國條款ヲ有ルニシテ外國政
府ニ於テ採用セラレシ法律條項ニ基キテ其法
律條項ハ輸出獎勵ノ方法ト曰ハシ能力ヲ有スル
場合ナシハ英國政府見處ニ據リ、他、締結國
ニ即チ人爲的ニ率比サレシ商業上ノ平衡ヲ保持

在外公館

カノ目的ヲ以テ之ニ相當ノ措置ヲ爲ス權利ヲ保
有スル者ト云ハシ

是、於テ露國政府ハ他、此露國ニ於テ砂糖ノ開
ク輸出獎勵スルノ存在セシメテ辨明シテ曰ク
例ト有リ、如キ保護カ存在セシメト決定スルモ英國
政府ハ露國砂糖ニ對シ他、邦國ノ砂糖ニ對ス
ル賦課スル多額ノ関稅ヲ賦課スルハ直々ニ千八
百五十八年及九年、通商條約ニ違反シタル旨ヲ主張
スル必要ヲ感ハ右各約ノオニ条ニ曰ク

英國皇帝陛下、極高内何等、生産或ハ製造ニ
係ル物品ヲ何ヶ地ヲ露國皇帝陛下、極高
内、輸入シ又露國皇帝陛下、極高内、何ヶ地
ヲ英國皇帝陛下、極高内、輸入スル何等ノ

生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ輸入スルモ總テ別
 國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ニ課スル所ノ税
 異ナルカ或ハ之レ多額ノ税ヲ課セラルル事ナリ
 有テ是レハ締盟國双方ニ對シテ無制限ニ最惠國
 待遇ヲ待過シ、權利ヲ享スル各約自條々別ハ
 疑ヒ存セザル所ナリ、詳言スルハ後述セザルニ
 特推ノ完全ニ享有シ保認スル者ナリ、右各項ハ
 露國ノ如何ニ生産或ハ製造ニ係ル物品トモ美
 國稅國收ニ於テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品
 課スル所ノ稅ト異ナルカ或ハ之レ多額ノ税ヲ課スル事
 ナルニキリ規定シタル者ナリ、是レ依テ之ヲ見ルニ露國
 產、何等ノ生産或ハ製造ニ係ル物品トモ英國稅國收
 東ル所ノ日性口種ノ高品ニ對シ曰一ニ課セザル追加
 稅ハ賦課セザルニキモノ、非キルヤ明ナリ、通商條約ハ
 如何ニ口定ヲ以テスルモ締盟國ノ一方ヲシテ他ノ締盟
 國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ニ對シテ亦英國稅國收
 ノ產品トモ更ナル多額ノ不利益ヲ待過シ、與フル權
 利ヲ認メ、故ニ例一事實上獎勵法が存在スルニモ
 ヒ、保護輸歩獎勵法追加稅ヲ課セラルルニキ口定ト
 為スルヲ得サレ、英國政府ハ最惠國待遇ニ與
 乙解釋、課稅ニ對シテ左記ノ事ヲ以テモ之ヲ認
 明スルニ足ルニシ蓋シ、彼ノ解釋ニ基ケル差シ或ハ國
 際法ニ流弊差シ、鐵道ノ運賃ハ輸出入高品ニ
 對シテ他國ヲモ安價ニ引下ケラル、場合ハ何等商
 品到着市場ニ於テ販賣情況ヲ手衡ナシム
 ル者、其國ヲ輸入スル該高品ニ對シテハ他國ヲ

在外公館

輸入する日、高品に對して課税する多額、關稅ヲ
 附加せしむるに對し、兼て課税せしむるに對し、或は
 國、製産力他國に於て製産力、少額、稅ヲ
 課せしむる場合、其高品に對して追加稅 (Taxe Supplémentaire)
 課せしむる正理を認めざるを得ず、且又比等、高品ヲ
 輸入する國に於て其工業に特別に利益を自然に得
 たるに於て存在する場合、於てモ高品に追加稅ヲ課
 せしむる非理なきを認めざるを得ず、何れに於て稅ノ多寡、若し
 ハ製産力自然に得たる差異、若し輸出、消長、
 影響、其に於て比し、其到着地、市場、
 於て高品販賣、情況、一様ならざるに於て、輸出
 稅ヲ附加せしむる高品に輸入する國、該高品に對して
 特別に利益を得るに於て、而して該國、輸入稅ヲ課
 せしむるに對し、
 在 外 公 館
 此に於て、日國、前述ノ主義、從て右ノ場合、於て
 ハ其本國に於て課税せしむる輸出稅、割合、依り該高
 品に對し、保護せしむる得ず、論決し見れば、至るに
 抑も輸出獎勵、若し、輸出稅を如何に揚る
 べきに於て、決して他、締盟國、一方に對し、追加稅ヲ課す
 べき權利ヲ得、又如何に種々、保護、完全、其に於て
 ハ、權利ノ理由、明かす、要するに、輸出、産品ヲ保
 護するに、保護せしむるに、輸出稅ヲ附加せしむるに、各國
 ノ自由、之に對し、畢竟、他、行政、処方、日、條
 列國市場、於て自國製産品、販賣、容易、ナラ
 ざるに、對し、且、等、高品に對し、而して、保護、(キカ、) 情況
 隨て、政府、隨意、執行、得、(キ、) 措置、外、ナラ、
 然るに、通商、条約、據り、而して、締盟國、附其、比、最、惠



國各約、推利ハ締結國、双方カ自國工業ノ發
 達獎勵ニ必要ト見做ス處、内地ノ秩序ニ關シテハ
 少シモ拘束ヲ受クテ理由ナキモノトス尚モ各約カ効力
 ヲ有ル限リハ締結國一方ノ高品ニ如何モ内部ノ
 政策ヲ輸出國ニ施行スルニ關セズ諸國ヲ輸入
 元日一ノ高品ニ課スルハ多額ノ税ヲ支付スヘキ者
 ニラス然ラカハ最惠國奉與ノ權利ニ却テ他國内
 部ニ立法ノ妨害ヲ方法ト為ルニ至ルニ是國政府ハ
 七月一日(露曆六月二十五日)露國政府ノ書翰付屬
 書、叙述シテ砂糖制度ニ關スル意見ヲ願ヒ不
 ガス先般高加入者一國トシテ其般高カ國稅ト
 内地稅ノ差額ヲ以テ一増額稅(シマキヤト)ト見
 做シ即チ其限度ヲ精糖百基ニ付キ六法ノ粗糖
 百基ニ付キ五法五〇參ト規定シ露國ニ於テ其差
 額六九法六〇參(輸入稅九七法六〇參内地稅三法)
 タル故ニ英國政府ハ勿論其他該般高ニ加入シタ
 ル外國ハ露國ニ於テ國產ノ利益ヲ為メ、制定スル
 タル保護即チ六九法六〇參ニ彼等ノ生産ノ正當
 ナ利益ヲ保護スル為メニ締結諸國カ認定シタル
 稅額ノ限及即チ五法五〇參ヲ六法ノ超過ヲ示テ
 故テ以テ露國砂糖權ニ對シテ追加稅ヲ課スル意思
 有モト認メラレシ此點ニ就テ露國ハ各邦國間ニ訂
 結セラレシ般高ニ違フノ義務ナシ蓋シ該般高ハ預
 メ利害關係ヲ有スル國ヲ自己ノ般高内ニ輸入
 及砂糖ニ關スル相互ノ條件ノミナズ又彼等ノ適當
 ナ生産ヲ保護スル為メニ必要ナル制限ヲ定ム目的ヲ

在外公館

以テ訂結セシメテ之ヲ以テ改テ之ニ從フ、義務
 ナキトス、露國、實際自己ノ義務ヲ無視シ該條
 議ニ賛同シタル諸國が彼等、随意ニ採用シ其通
 用ニ關シ露國が加入セザル条件ニ抑リテ彼等、為
 ノニ拘束セズ、又テ兼該条ヲ得テ又前項、俄國
 ハ帝國政府が自國ノ領内、於テ工商業ノ發達
 ニ關シ必要ト認めル所、政策ニ關スル動作、自由
 ヲ侵犯スルコト認めル能ハズ若シ保護砂糖、對シテ
 對計画が其廉價砂糖競争ヲ輸入國ヲ保護
 スル目的ヲ有スルトキハ追加税、制限ニ關スル項ハ明
 カニ他ノ目的ヲ有スルモノトスヘシ即チ外國砂糖ノ輸
 入、道ヲ開ク事ハ外國、於テ糖業發達ノ爲メ必
 要トシ獎勵法、對シテ輸入國が互抗的ニ課税國ヲ
 自由ニ制定シ之ニカ防遏策ヲ施行スルコト云テ歸着
 スヘシ英國政府が該書翰、露國がブラジルの會議ニ
 加入シ拒否場合ニ於テ、英國ハ露國砂糖糖ニ對シテ
 制裁條件ヲ適用スル外ナリ而シテ其事タルヤ千八
 百五十九年一月十日ノ英露通商條約ト相合シカ
 右ト認めルコトヲ得ズト云ヘリ故等ノ先言ニ據リハ英國
 政府ハ曾テブラジルの會議ニ加入セザル和國ニ對シテ制
 裁尚余ヲ適用スルノ意思ヲ有シ而モ其措置ハ決シテ
 最惠國條款ノ權利ヲ侵害スルコト認めルコト論決
 スルヲ得ヘシ前項、處置ニモヤ實際協高列邦間、
 對シテ公平均等ヲ期スル、恰當スル一方ヲ觀察
 スルハ彼ノ外ラズ協高、加入セザル諸國ハ一般ニ通商
 條約ノ直接違反、伴ヒタル權利、侵害ヲ被ルモノト

在外公館



高にナルヘカラス、蓋シ最惠國各款ノ目的ハ斯ノ如キ公
 平均等ヲ維持スニ非ザルヤ明カナリ之ニ反シテ該各
 款ノ目的トスル所ハ締結國ノ一方ヲシテ聯邦諸國ガ
 併根高ニ加入シ先着或ハ之ニ加入セザル者ニ對シテ
 的ニ待遇ノ區別ヲ殊別スル等事ヲ防遏スニ在リ
 首國國際上ノ關係實際ニ從ヒテ今日迄ニ數
 回ニ訂結セラルル最惠國ニテ單ニ各自ノ利益ト希望
 ノ漏ラス為シ、其數國ト最惠國各款ヲ約束シ
 他ノ諸國ヲ牽制シタル实例ニ當テ見出スル得サ
 ルナリ而シテ露國ガブラツク會議ニ代表者ヲ參列
 セシメザル理由ハ露國ハ自國ノ政務業ニ関シテ必要
 ナ諸條、行政方法ニ関シ完全ナル自由ヲ保有セシ
 ト欲シタルト曰フ、列國政府ガ自巳ノ代表者ヲ命ジテ

在外公館

討論セシム所以ノモノ、特ニ經濟的見地ニ立テ
 最惠國各款ニ關スル法律的主義ノ外ニ在リテ
 問題ヲ議スモノ、外ナラズシテ實際比根高ガ現行
 各款ノ違反ハ渡ル所ノ決議ヲ改メテ、當テ豫斷
 ヒカリテ所ナシ、高ニ結締ニ臨ミテ摘記スヘキ事ハ是
 國政府自身カ此ノ過去ニ於テ追加税、用シ今ク
 他ノ見解ヲ有シ此事ナリ即ケ午一九一九年ニ於テ
 英國外務省ハ下院ノ委員ニ對シテ通商各款ノ違反
 ナレハ推衡税(Direct Compensation)課スヲ得スト言明シタ
 ルニ非スヤ、尚且、紅毛ニ基キ露政府ハ英領内ニ輸
 入スル露國砂糖ニ對シ追加税ヲ課スルハ午一九一九年
 一九一九年ノ各款ノ精神及明文ニ照シテ違反ノ處為
 ト認メサルヲ得ス露國ハフスル根高ヲ適用セト欲ス

一、國・對シテハ其輸出上着シキ痛痒ヲ慮ルモ
 ニラズ何トナレハ比等ノ國ニ於テハ該品ノ輸入ハ露
 國必都ノ砂糖制度ニ據リテ輸出ノ差違ヲ制
 限セラルカ故ニ極ソテ少量トナリ然レモ露國政
 府ハ事實上明カニ通商各約ノ主義ノ違反カ
 左邦間ノ關係上シテ差違ヲシテ厄障ナラシム
 一、先例ト為ラシメテトシテ比觀察点ヲ解釋
 スルハハアラズ協商ニ據リテ生シタル斯ノ如キ先
 例ヲシテ嘗テ列邦ハ萬國砂糖保護問題ニ
 對シテ講究シタル者時、情態ト不相慮ノ情態
 ヲ作為スルニ足ルヘキ先例ヲランニ想フ、英國政府
 卜等自ラ之ヲ非認ル得カレシ
 前述ノ情況アルモ物ニス若シ英國政府ニシテ存
 在 外 館
 問題ヲ列國付裁カ若クハ海牙、帝設付裁
 委員ニ附スルニテ欲スルニ於テハ露國政府ハ敢テ
 其希望ニ副フ事ヲ許スルニテラズ且ツ存問題カ
 世ニ砂糖・関シテノミラズ總テ其他ノ商品ニ對シテ
 弘ク講究セラルニ於テハ更ニ異論ヲ唱ヘカレシ
 比等ノ問題ヲ慎重ニ研究スルニ露國々際國
 係上最モ緊要トヘカラサレ定、各國政府
 ハ過去十五年一時、經濟上ノ考慮ニ驅ラレテ全ク
 法理的地盤ヲ高シテ追加税ト最惠國條款ノ主
 義ト並立スルヤ否ヤノ問題ニ關シテ全然互對ノ見解ヲ
 唱道ニタル事實ニ徴シテモ比問題ヲ講究討論
 スル必要アリト認ル所以ナリ